

熊本支部報

日本山岳会熊本支部

No. 14 平成16年3月31日

印刷秀英印刷

目 次		
支部長隨想 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	会員近況 ・・・・・・・・・・・・ 38
会員随想		
一	2	会員名簿
		277717
『県境の山』補遺調査報告・・・・・・	25	支部規約 ·····46

第21回全国支部懇談会の開催にあたって

支部長(8190) 工藤 文昭

3年前の支部役員会で、全国支部懇談会の開催支部として立候補することが決定され ました。その当時、すでに開催、又は開催予定の支部を除くと、まだ担当していないの は5支部だけでした。熊本支部も設立50年にならんとする歴史をもちながら、それま で担当する機会がありませんでした。支部としての責任を果たそうと、その春の支部代 表者会に申し出て、熊本開催が決定されました。これまで、石川、広島、そして昨年の 青森大会に参加し、先催県に学びながら、熊本開催に向けての準備を進めてきました。 準備委員会を立ち上げ、これまでに9回の会合を持ち、2日間の日程についてかなり詳 細な所まで準備が出来ております。これから支部の組織を挙げて取り組めば、全国から 参加される皆様に、必ずや満足していただける集会になる見通しも立ちました。熊本支 部は、全国25支部のなかで、最も小さな組織ではありますが、先日の支部での大会参 加者調査では、約7割の会員から参加するとの回答をいただきました。支部会員の皆様 の「熊本集会を成功させよう」という意気込みを感じる結果でした。外部からも、素晴 らしい方々にご協力をいただくことも決定しています。全国髙校文化祭出場の常連で、 「くまもと県民文化賞」という栄誉ある賞に輝く鹿本農高郷土芸能伝承部は「山鹿灯籠 おどり」を優雅で幻想的な中にも、高校生らしい初々しい演技を見せてくれます。カン トリーミュージックの大御所、チャーリー永谷さんも、永谷会員のご尽力で懇親会を盛 り上げて頂くことになりました。チャーリーさんは、ケンタッキー州名誉称号、ケンタ ッキーカーネルをはじめ、アメリカ33の州から名誉州民を受賞されておられる超ビッ クなミュージシャンです。懇談会の講演も、阿蘇火山館館長池辺伸一郎先生にお引受け いただき阿蘇の生い立ちから現在の火山活動までを講演いただくことになっています。 これからは、これまで立てた計画を各係で具体化していかねければなりません。運営ス タッフは少ないですが、それぞれのやる気と力を結集して参加者の皆さんが感動できる 懇談会で終わりたいですね。新年度になれば、準備のための会合も多くなりますが、会 員の皆様は、ご多忙の中万障お繰り合わせの上ご協力いただきますようお願いします。

こちの谷 …1986稣…

5421 本田誠也

水俣病を主題とする作家として著名な石牟礼道子さんの著書に、『常世の樹』 と題する巨樹・霊木の探訪記がある。そのなかに俵山中腹にある「こちの谷」の 一遍があるのを知ったのは、もう幾年前のことだろう。信州や阿蘇を題材とした 小説『十文字峠』の著者、吉田優子さんに案内されて石牟礼さんは、はじめてこ ちの谷を訪れた。

『そこには樹肌が紫色で鹿の子模様の幹をした神様の木があるということだった(輔) 紫色の神様の木があるというこちの谷に向かってわたしたちはゆつくり登っていった。秋近い夕昏れになればここら辺りは、ゆけどもゆけども降り注ぐようなカナカナの声の中を通ってゆくのだが、登りかけたこちの谷への道は頂きの俵山が、呼べばすぐ返事を呉れそうに近く見える。阿蘇の五岳を囲む外輪のつながりで、森林はなく、頂上を目指してどこからでも登り始めれば、笹やすすきをかきわけてゆく筋がすなわち道になる』… 些か引用が長くなったが、40年このかた我が家の庭のように歩き廻っていた阿蘇に、わたしがまだ知らないところがあったとは… と、石牟礼さんのあとを辿ることにした。

いまは牧野改良の道が、こちの谷の森の横を掠め俵山の肩口までつけられている。南から北へ外輪の裾を横断する2ルートの高圧送電線の下をくぐり、果てしなくつづくススキの穂波をかきわけながら登る。大小の岩塊が散在する尾根の鼻を廻り込むと、浅い谷の奥にこんもりとした樹叢が見えた。それが目指すこちの谷の森で、水が涸れた谷には大きな岩が積み重なり、森は洞穴のように入り口を開いていた。明るい陽光に慣れた目には、森のなかは暗く別世界のようだった。大地は堆い落葉に覆われてマットを踏むような感触… 苔を纏った木々は、枝や葉を交錯させ完全にこの小さな谷を包みこんでいた。森のほぼ中央に「鹿の子模様の神様の木」がすっくと立っていた。カゴノキであろうか… 一抱えほどもある大樹である。ほかにはツバキ、イヌガシ、ヤブニッケイ、アオキなど私の貧弱な植物知識では知るよしもないが、この木は森のなかでこの一本だけであった。

谷の奥から微かな水音が聞こえるので、左手のヒノキ林の中を伝って登ると滴りほどの水が上にゆくほど増え、やがて小さな滝の下に出た。簡易な取水口があり、パイプが引き回されている。谷の上部は、急峻な斜面となって俵山の頂きへ突き上げていた。

※阿蘇郡西原村 2.5 個「立野、大矢野原」



長崎・八郎岳(一等三角本点の山)

10240 長田 光義

天草の角山周辺の一等三角本点は五箇所あり、長崎市の八郎岳(590m)、小浜町の 雲仙普賢岳(1359m)、芦北町の笠山(567m)、出水市の矢筈岳(687m)、上甑島の遠目木 山(423m)が天草を囲む本点の山々である。八郎岳(はちろうだけ)は長崎市の東側 に連なる山地にあり、北東南西方向の山並みは野母半島へ続いている。

初冬に本渡を二人で出発し、鬼池港からフェリーに乗船して口之津港に渡る。長崎市内から国道 499 号線を野母崎方面へ進み、平山農協支所を左折する。登山口は墓地が目印になるが駐車場が無いので近所の方にお願いして墓地の駐車場に車を置かせて頂く。

時間も過ぎて 11 時近くになり、自転車専用道を横断して墓地の階段から登り始め ・登山道は広葉樹林に囲まれた尾根状の地形で歩き易い。遠くから太鼓の音が聞 こえ、やがて杉植林地になり鹿食害防止ネットが張ってある。気温も上がり汗を拭 きながら檜林を過ぎて背の低い広葉樹林帯になるとすぐに八郎岳頂上に出た。

突然視界が開けて、眼下に三菱重工業長崎造船所が見えて、右側に長崎港と長崎の山並み、遠く東シナ海を見渡す。目を東に転ずれば天草島を遠望し、角山はどの山かと目を凝らした。山頂は広い草原状で、その中央に一等三角点の標石と天測点の支柱がある。持参した小さな標識柱を建てて記念にする。快晴の空の下で多くの登山者が弁当を広げて歓声をあげていた。

下りは小八郎岳へのルートをとり、登りの反対側に下る。少し下ると迷いやすい 三叉路になり右折して車道に出る。再び登山道を登ると小八郎岳の山頂に着き、岩 が多数点在していた。ここから八郎岳の雄姿を写真に収めて下り始める。紅葉はほ とんど見られず黒々とした広葉樹林や針葉樹が広がっていた。

小八郎岳から草原状の乙女峠に下ると車道がある。乙女峠から平山への急な下りは歩きやすいが割と長く、大川を左に見ながら谷間を下る。車道に出ると市民農園 あり、多くの人が畑仕事をしていた。このあたりの道路は割と広いので駐車でき そうだと考えながら車に戻る。

茂木港から富岡港へのフェリーもあるが再び口之津港へのコースを帰る。途中東シナ海に沈む夕日が感動的だった。

タイム;登山口(墓地)—80分—八郎岳—30分—小八郎岳—20分—乙女峠—50 分—市民農園—10分—登山口



自然と自然を愛する人が授けてくれる幸せ

10390 阿南 誠志

昨年は私にとって大きな節目の年であった。

結婚して30年、山の店シェルパを開店して30年と

記念すべき年で、55年の年月に改めて感謝したものである。

自然を愛する多くの登山愛好家の方々と生活できること、

みなさまの健康維持のお手伝いができること、

青少年と共に考え、共に行動できる若い仲間がいること、

家族で一緒の仕事ができること、

未来を託す息子たちが同じ登山を、そして仕事を持ってくれたこと、

自然の中で生活と農園ができること、

喜びの内に生活ができる幸せを感じながら新年を迎えた。

40年間元旦のご来光は山で迎える。

今年の久住山頂は雲海と雪山に真紅に輝くご来光は格別であった。

「地球上から戦争がなくなりますように」

「みんなの健康を守ってください」

「今年も生きている証をさせてください」

みんな願いを込めながらご来光に手を合わせた。

今年は熊本支部が担当しての全国支部懇談会が開かれる。

少しでもお役に立ちたいと願っている。

終わりなき山旅

12909 永谷 誠一

昨年も心身共に充実していたおかげで、全国各地の山に登ることができました。 5月連休には盛岡在住の医師、中屋重直氏(JAС11180)、版画家阿部陽子ご夫妻を祖母・傾縦走に案内した。幸い好天に恵まれて、縦走路を飾るアケボノツツジの大歓迎に殊の外満足されたようでした。

過去4年間、東北の山旅を計画する時に対象の山は無論のこと、アクセスや山宿まで、細かく情報を提供され、その上同行までしていただき、著名な東北の山々を詳しく知ることができた恩返しの山行だった訳です。

5月中旬には山仲間を縄文杉に案内し喜んでいただき、6月には四国の剣山、三 韻を訪ね、7月に福島の磐梯山、西吾妻山、安達太良山を歩き、8月には孫を連れ 恒例のアルプス山行で、上高地より蝶ケ岳、常念岳より大天井・燕岳と槍・穂高連 峰の一大パノラマに感動しました。

9月は山友3人で、念願の飯豊山に足を延ばし、その山容の大きさに圧倒されました。山中で東北地方の登山愛好家と仲良くなれたのも大きな喜びでした。

さて、今年の計画は、まず4月に「熊野古道を歩く」から始まり、5月には四国

山旅の第二弾として、西赤石、東赤石岳の縦走と、伊予富士の山頂を踏み、7月には北海道に飛び、大雪山系から登る予定にしています。8月、この夏は立山連峰、大日岳の稜線を歩き、称名滝を見物し、9月には飯豊山北方に対峙する大朝日連峰を目指します。10月上旬には、東北シリーズ最後の岩木山、八甲田山に登頂し、そして錦秋の奥入瀬渓流を贅沢に楽しむことにしております。

勿論、九州の山も未知の山、ルートを探し求めて歩き廻りたいと願っています。

2003年の山

9649 鶴田佐知子

2003年の山行は、1月中旬山鹿の西方の不動岩付近ののんびり歩きで始まった。次いで19日、永谷さんのリーダーで南外輪の地蔵峠から、駒帰りまで歩いたが、この日は非常に寒い日で、道路から峠への階段はカチカチに凍り、久し振りに軽アイゼンをつけた。外輪の雪はかなり深く、昼食時の温度はマイナス何度だったのだろうか。

2月はアルコウ会で天草の老岳へ。天気に恵まれ、ほとんどアスファルトの道をゆっくり登った。頂上に着いた時は汗びっしょり、風は気持ちよく吹き抜け、天草の島々が奇麗だった。下旬には宇土半島の付け根の白山へ。宇土高校に集合し、轟水源から三蔵憩に登り、ここから白山のすそを東に向かう。白山登山口の立札から頂上へ。高い山ではないが、姿が美しく見事な眺望だった。月末思い立って古閑の滝に行ったが、凍てついていない古閑の滝は何となく淋しく、ミツマタのつぼみがふくらんでいた。

3月はアルコー会で鶴見岳にと向かったが、瀬ノ本に近付くにつれて路面凍結、 車の都合で清栄山に変更、雪化粧した高岳、根子岳を眺めながらの山行だった。月 末は七城村の城跡を歩いただけで終わった。

4月は、瀬田裏原野歩き。大津ゴルフ場から歩き始め牧場へ出た。ワラビがあちこち、キランソウ、アマナ、色々なスミレなど見ながら原野を登る。牛の親子などに出会いながら造林記念碑着。春がすみで阿蘇の山々は余り見えない。足元には星のようにハルリンドウ、そしてキスミレ、ミツバツチグリの黄色が美しい。昼食は通信中継所あたり。食後は、ヒノキの林の中を歩いたり、藪こぎしながら豊前街道の石畳まで歩いた。月末には友人と日奈久温泉から湯の迫峠大師堂までをゆっくり歩いた。

5月は何年ぶりだったろうか、くりから谷を上の方まで歩いた。途中クララの咲く草原でオオルリシジミに出会い楽しかった。中旬、一泊で甑島へ行った。25年**振り**だったろうか。港にはホテルをかねた里村交流センターが建ち、昔の面影はなかった。ここから山の海側の新しい道を歩いてなまこ池まで下った。翌日は中甑港まで歩き色々な植物に出会った。下旬には徳之島、奄美大島、喜界島へ行き、奄美大島中央林道を歩いた時には、可愛いサクラランや野生のノボタンの群生に出会っ

た。

6月には2週間ほど上京。この間に娘夫妻と孫達など20年ぶりに谷川岳に登った。この時期谷川岳には花が多く、ムラサキヤシオツツジ、ウラジロヨウラク、シラネアオイは赤く、タムシバの花は白い。山荘近くの草原は雪が深く、雪を解かして作ったインスタントラーメンは熱く美味しかった。下ってから武尊山近くの宝台樹キャンプ場でテントを張った。

7月には、中旬に八代の八峰山に登った。余り天気は良くなかったが、上りは山道を廻り、3時間ほどかけて山頂に着いた。弁当を広げた途端雨が降り出し、石の下からマムシが出てきてびっくり仰天。下りは尾根筋を上宮の方に下り、1時間ほどで上宮跡についた。

8月は山形の月山に出かけた。空路東京に出て新幹線で山形へ。山形からは高速道を鶴岡へ向かう。途中、白く大きなヤマユリが美しい。鶴岡に一泊し、羽黒山神社三神合祭殿に参拝し、月山8合目から登山が始まった。梅雨明けした筈なのには降り、ニッコウキスゲが咲き乱れる中を過ぎ、急な上りになるとハクサンイチゲハクサンフウロウなどが見えるが、雨はいよいよ強くなる。11時30分、9合目の仏生池小屋に到着、ここで昼食をとったが、天気の回復は考えられないのでUターンすることになった。私は月山に縁がなく、3度目の今回も頂上に立つことができなかった。鶴岡にもう一泊し、翌日は県立自然博物館を訪ね、ヤグルマソウやオニシモツケなどを見て、ジャガラモガラに向かう。ジャガラモガラは標高500mに存在する窪地だが、窪地の底に風穴群があり、真夏でも3度から8度の冷たい風が吹きだすため、亜高山帯の植物が繁茂している不思議なところだった。ホソバノキリンソウ、トモエソウ、クガイソウ、ヤナギラン等に歓声をあげた。

9月の中旬は青森での日本山岳会第20回支部懇談会に出かけた。12日は青森市内に泊まり、翌日駅前からバスで奥入瀬渓流グランドホテルに向かった。開会まで時間があったので、近くを散策すると、トリカブト、キツリフネが咲き乱れ、名前のわからない黄色の花が奇麗かった。懇談会、懇親会は順調に進み、214名の参加者に青森支部のご苦労の一部を知り、2004年の熊本での支部懇談会の大変さを考えた。14日は都合で登山には参加出来ない私は、広永氏とともに青森から帰熊した。

9月の初めはアルコー会で荻岳へ。中江神楽殿から1時間一寸で頂上へ着いた。 天気は良く、眺めよく神楽観賞は楽しかった。

10月は、和歌山の娘の所に出かけ、竜神村の1392mの護麻壇山へ孫達とお散歩登山、関西近畿百名山の一つで展望良く、紀伊半島の山々の深さを実感した。中旬自然保護全国集会IN岐阜に参加した。11日午後から12日にかけて討論会があり、13日が山行の予定になっていた。環境保全と登山の在り方が総合討論され、乗鞍岳の車両規制への説明があり、考えされた会合だった。13日の乗鞍岳登山は天候の都合で道路閉鎖のため、1479mの舟山と平湯の大滝見学、平湯峠の紅葉狩り

に変更、バスは美しい紅葉のトンネルを抜けて山路を走った。月末はアルコー会で 弁天山から小野の泉水を散策、コスモスが奇麗だった。

11月は、上旬に端海野へきのこ狩り、きのこなべを楽しみ、中旬には上京、娘夫妻と北八ケ岳を歩いた。ここも20年ぶり、氷が張り始めた白駒湖から麦草峠を経て茶臼山へ。雪が少し積んでいる山頂で熱いラーメンを食べ、次に稿枯山に登り小雪と氷の下りはスリル満点。夕方ランプの山小屋稿枯山荘に着いた。まきストーブのうす暗いランプだけの小屋でのんだビールの美味しかったこと!翌日は山の西側の高原から北アルプスを眺めながら高原の道を麦草峠に出て帰京した。

12月は月初めのアルコー会の清掃登山で金峰山へ。2003年もどうにか山を歩くことが出来た。厳しい山には登れなくなったが、暇があると竜田山へは散策出来た1年だった。

春告鳥(ウグイス)

5120 石井 久夫

今年のウグイスの初鳴きは2月17日であった。通常鳥の鳴声は「地鳴き」と「囀り」の2つに分けられるが、春になるとウグイスの「囀り」であるホーホケキョの美声があちこちで聞かれ、春告鳥といわれて昔から日本人に最も親しまれ、誰もがホーホケキョと聞くと、ウグイスであることを知っている。

冬に少し緑の多い住宅地や公園、神社などに住み、時には河原の葦原にも姿を見せてジャツ、ジャツと舌打ちのように鳴く。それが「地鳴き」で結構この声の主を知らない人が多く、あれがウグイスかと驚く人がいる。竹藪で鳴くので笹鳴きといっている。ちなみに英語で「囀り」のことを「song」といい、同性にたいする縄張り宣言と、異性への求愛の信号で、「地鳴き」は「VOICE」といって、通常コミニケーションの信号で、雄だけが囀りをやる。

夏は高山や山地の低木林などに住み、笹やぶに営巣することが多い。冬になると 人里や海浜に漂行して、藪で越冬するので、やぶウグイスといわれ、都会の庭や垣 根に飛来するので人目につきやすい。

雌雄同色で全身茶褐色で、鶯色といわれ、眼の上に淡褐色の眉斑がある。うぐい す色といえば、うぐいす餅を思い出すが、くすんだ緑色ではなく、緑色は殆ど感じ られず黄色に近いといっていってよい。

すすきや竹の葉で球形の巣を地上すれすれから、1.2mくらいの高さに作り、 $5\sim6$ 月頃に人の小指先くらいのチョコボールそっくりの卵を $4\sim6$ 個生む。この頃にホトトギスがウグイスの巣に託卵する話は有名で、時々ホトトギスの育ての親になることがある。

ウグイスは昆虫類が主食でコガネムやシシヤクガ、ゾウムシの幼虫を好んで食べる。冬には柿の実などの植物質も良く食べている。

古典文学に出てくる鳥の御三家として古今集にはウグイス、ホトトギス、雁がよ

く歌われている。

「花の散る ことやわびしき春霞 龍田の山の 鷺の声」 (古今集、春下、藤原後蔭)

ウグイスは花を愛する鳥で、花の咲くのを待ち、花の散るのを惜しみ、梅と配合されることが多く、「梅の花笠」を縫うとも言われている。花の蜜を好み、特に梅の花の咲く頃、その蜜を求めて梅の木に飛来するので、「梅に鷺」という言い習わしが出来たが、本来は梅の花だけを好むという訳ではなく、その他の花の蜜をよく吸っている。

ウグイスの語源は語尾の「ス」は鳥を表す接尾語で、「ウグイ」は不明であるが 鳴く声ではないかと文献に書かれている。万葉集では「宇貝比須」と出ている。

中国でウグイスというのはコウライウグイスのことを表し、日本で言うウグイス ではなくて、分類も違って科が異なる。コウライウグイス科で色も黄色でまれに迷 鳥として九州地方にも飛来している。

ウグイスは日本の三大鳴(名)鳥にコマドリ、オオルリとともに数えられ、昔からよく飼育され、その優雅な美声を楽しむ習慣があった。徳川時代の将軍家には、「お鳥掛かり」と称する飼育専門の役職があったと伝えられている。

ウグイスを正月頃に鳴かせるために、夜飼いといって日照時間を人工的に長く延ばし、春が来たと思わせ、ホルモン分泌を調節して、早く鳴かせる技術がある。

鳴き声の「ホーホケキョ」を「法法華経」とききなし「経読鳥」といった俗称がたくさんある。ウグイスの谷渡りといって、飛びながらケキョ、ケキョ(又はキツキョ)と連読音の続くのがあるが、これは警戒音とされている。又、飼鳥のほうで三つ音(ね)といって上音(こうね)ヒー、ホケキョ、中音(なかね)ホー、ホケキョ、下音(さげね)ホロホロホロ、コケキョと巧みに高音、中音、低音を入れ混ぜて鳴き分けをしているが、自然の中でも注意して聞いていると、そのように聞こえて非常に面白い。

(メモ)

ウグイス〈ヒタキ科・ウグイス亜科〉

Cettia diphone

体長 14~15.5 cm, 鳴りはよく知られたホーホケキョ、

全国の低地から山地の笹のある場所で繁殖する。

山地や北に住むものは、冬に暖地に移動する。

(漂行) 市街地の公演や庭の茂みにもよく姿を見せる。

水平に近い姿勢で枝に止まり、体を左右に活発に動かしながら 枝うつりをする。

ネパールヒマラヤトレッキング トロンパス (5,416m) 報告書



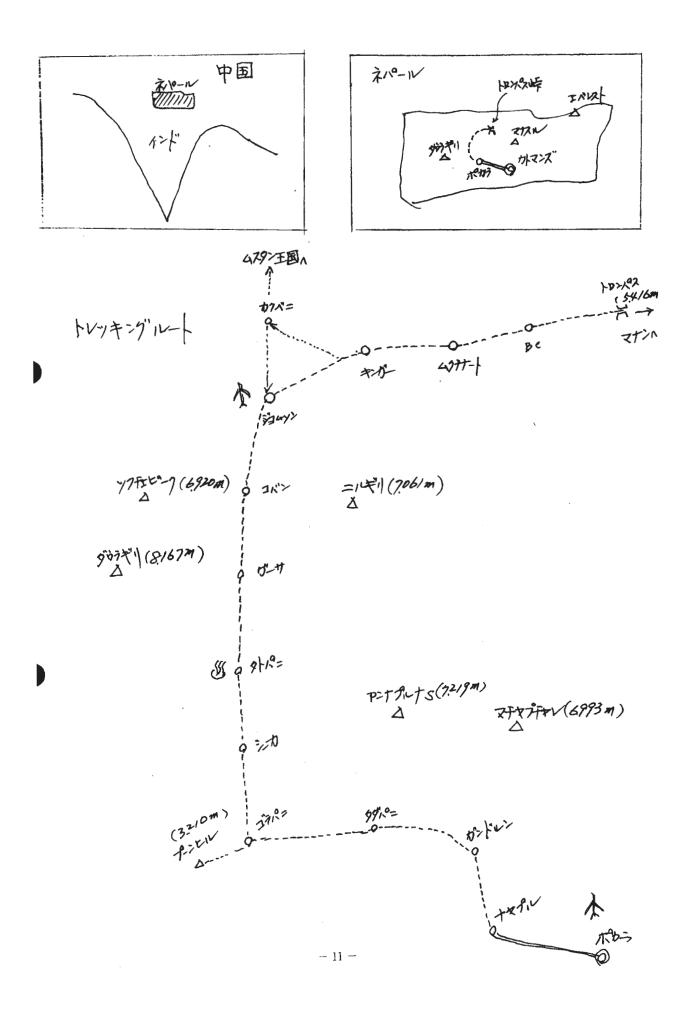
日本山岳会 熊本支部



隊員 6名



総メンバー 23名



2003年秋 ネパールヒマラヤトレッキング(報告書)

- 1. ルート ネパールヒマラヤ(トロンパス 5,416m)
- 2. 期間 2003年9月30日~10月26日(27日間)
- 3. 参加者 松岡栄治(渉外)·啓子(会計)、加藤功一(総括)·百合子(会計) 石井文雄(記錄)、加藤 明(医療)
- 4. 費 用 約170万円
- 5. 行動結果
 - 9.30 ・・・・ 熊本~関西空港(夜行バス)
 - 10.1 ・・・・関西空港、ホテルニッコウ泊(ロイヤルネパール航空が飛ばないため停滞)
 - 10. 2 ····関西空港(星)→カトマンズ(ホテル)···COSMOと打ち合わせ
 - 10. 3 ····カトマンズ(1,300m)(チャータバス)→ポカラ(800m)(ホテル)
 - 10. 4 ···・ポカラ(チャータパス)→ナヤブル(1,600m)→ガンドルン(1,900m)(テント) キャラパン開始・・・草イパラを纏って手を痛め者がいた
 - 10.5 ····ガンドルン→タダパニ(2.680m)(テント)···山ヒルに食われた者がいた
 - 10.6 ・・・・タダパニ→ゴラパニ(テント)・・・マオイスト現れる
 - 10.7 ····ゴラパニ(プーンヒル2,900m)→シーカ(1,920m)(テント) プーンヒルから、ヒマラヤ360度の展望が楽しめた
 - 10.8 ·・・・シーカ→タトパニ(1,200mテント)・・・日本人トレッカーと会う
 - 10.9 ・・・・休養日(テント)・・・温泉入浴、マッサージ、カリガンダキ川で水泳
 - 10. 10 ····タトパニ→ガーサ(2,000m)(テント)··・ダウラギリの朝焼けがきれい
 - 10.11 ···・ガーサ→コパン(2,330m)(テント)・・・リンゴ畑が洪水で流されていた
 - 10. 12 ・・・・コパン→ジョムソン(テント)・・・夜、オオカミ(野犬)の泣き声が怖い
 - 10. 13 ····ジョムソン→キンガー(3,000m)(テント)··· プラタナスの紅葉がきれい
 - 10. 14 ····キンガー→ムクチナート(3,900m)(テント)··· バイオリン弾きの爺さん
 - 10. 15 ····ムクチナー(テント) 休養日 洗濯、高度順化、石井(4.500m)に登る
 - 10. 16 ····ムクチナート→トロンパスBC(4,200m)(テント) 高度順化で4,500mまで
 - 10. 17 ····トロンパスBCからトロンパス(5,416m)往復····アタック成功(テント)
 - 10. 18 ····トロンパスBC→カクベニ(テント)···牛馬の牧場でキャンプ
 - 10. 19 ・・・・カクベニ→ジョムソン(ホテル)・・・・キャラパン解散
 - 10・20 ・・・・ジョンソン→ポカラ(ホテル)・・・・上空からのヒマラヤがきれい
 - 10・21・・・・ポカラ休日(フィッユテールホテルで昼食、夜はネパリーダンス見物)
 - 10.22 ・・・・ポカラ(朝)→カトマンズ(ホテル)(ツーリストバス、午後3時頃着)
 - 10. 23~24 ・・・・カトマンズ休日(ホテル)(お土産購入、スワムナート寺院・パタン見物
 - 10. 25 ・・・・カトマンズ・・・日本寺院見物(夜11時45分カトマンズ発)→関西空港へ
 - 10.26 ···・関西空港着(11:20頃) JRで熊本へ

ネパールヒマラヤトレッキングについては、2年前から計画したが、ニューヨークでの テロによる爆発事故やサーズ、マオイスト等の関係で、行くのを控ええていたが、一応落 ちついたので実行した。

行き先はポカラからトロンパス(5,416m)までとした。

通常であればアンナプルナ1周であるが、今回はネパールは初めての者が多かったため もし、不調者が出た場合トロンパスが越えられないことを想定し、トロンパスを最終目標 とした。

計画に当たっては、高度順化のため、低いところからだんだん高度を上げていくこととし、無理をしないため5日に1日の休養日をもうけた。

出発の初日、関西空港でカトマンズ行きの飛行機のトラブルで足止め、フライトは明日となりホテルニッコウで1泊、おかげで豪華なホテルでくつろぐことができた。

日程はカトマンズの出発を1日延ばせばよいと思っていたら、COSMO TOREKから「出発の準備はできていますので、予定通り明朝出発して下さい」とのこと。

大津さんから最近のネパール情勢について「マオイストの件で、もし**遭遇**して金を要求されたら抵抗しないで払って下さい、これまでの情報では一人1,000ルピー程度と聞いています」とのこと、物騒な話であるが一応聞いておいた。

ホテルに着き、さっそく身の回りの準備をして、明朝の出発に備えた。

ナヤプルからのキャラバンは順調に進み、ガンドルンでガイドが日本人トレッカーから 聞いた話しによると「ゴラパニでマオイストに一人1000ルピー払った」とのこと。 2日目のガンドルンからタダパニへの途中で「鶴の渡り」を見た、これまで本とか話に は聞いていたが、実際に自分の目で見たのは初めてで感動した。

鶴は20羽位でアンナプルナサウスの左方を暫く旋回して、手前の山陰に消えた。

また、タダパニでは山ヒルに食われたとの騒ぎがった、山ヒルはモンスーン中はいると 聞いていたが、この時期のもまだいた。

ゴラパニへ着き、ガンドルンで日本人トレッカーから聞いたマオイストがどういう形で 来るか心配していた。

キャンプの準備ができ、買い物をしたりして、今日はもうマオイストは来ないのかな? と思っていたところ、ガイドが来て「マオイストの人が来ましたので対応して下さい」と 2人連れて来た、1人は20才位の男性、もう1人は15才の少女でにこやかな雰囲気で ある。

手書英文のメッセージを見せて「一人1000ルピーカンパしてくれ」と言ったので、隊員から1000ルピーづつ集め6000ルピー渡したら領収書をくれ、「また、どこかで

請求されたらこれを見せればよい」と言い、隊員全員と笑顔で握手して分かれた。 これで一安心、貴重な経験をした。

プーンヒルからは、ダウラギリ、ニルギリ、アンナプルナ、マチャプチャレと360度の展望を満喫しタトパニに向け下る。

タトパニで休養、久ぶりの温泉で汗を流す、湯につかってのビールは格別うまい。 洗濯したり、マッサージする者もいた、温泉のすぐ横のカリガンダキ川で子供達が泳いで いたので一緒になって泳いだ、急流に流されやっと岸に泳ぎ着く、だいごみがあって面白 い、こんな経験をすることは又とないだろうと、寒さをこらえて泳ぎ、冷えた身体を温泉 で温めた。

ムクチナートまでは全員順調に高度順化してきたが、ムクチナートで百合子の調子がおかしくなった、休養日を利用して1つ下の集落 (ジャルコット) まで下り、高度順化をやり直したが直らない、どうもムクチナートで洗濯した時の水が冷たく風邪を引いたらしい

トロンパス BC から、明日のアタックに備え4,500mまで高度順化のため登ったが 百合子の調子は戻らないため、明日のアタックは断念し BC へ残すことにした。

いよいよアタック、BC $(4,200 \, \mathrm{m})$ ~トロンパス $(5,416 \, \mathrm{m})$ までは $1,200 \, \mathrm{m}$ の高度差がある、今日はそこを往復するわけだ、朝3時にスタート、ヘッドランプと月の 明かりに助けられゆっくり登る、冬山装備をしているが寒さで足の指が痛い。 途中でもうだめだと言う隊員もいたが、朝日が出ると元気を取り戻し目的のトロンパスへ登ることができた。

帰りはポカラで2日間休養して、マチャプチャレの雄姿を眺めてトレッキングの成功 を噛みしめた。

カトマンズで COSMO に無事を報告し、観光とショッピングを楽しんだ。

(まとめ)

- ① 全員無事に当初の目的を達成できたことから、リーダーとしての役目が果たせた、 また、参加者から楽しいトレッキングだったとの評価を受け満足した。
- ② トレッキングサポートメンバーが、ガイドからポーターまで全部 COSMO の所属で 気がゆるせ安心した旅ができた。

特に、食事は私たちの口に合ったもので、毎日メニューが変わりおいしく食べられ 満足できた。

記錄担当:石井文雄

9月30日(火) 熊本発9:00 夜行バスで大阪へ 熊本から3名、植木から3名乗り、全員が揃った。睡眠薬代わりにビールを飲む。 これから行くネパールの夢を見る。

10月1日(水) ホテルニッコウ泊

関西空港で星まで出発を待ったが、飛行機の故障で今日は飛ばないのでホテルニッコウ 泊となる、おかげで豪勢な夕食と綺麗な部屋でくつろげた。

10月2日(木) 関西空港発(11:00)~上海経由~カトマンズ(16:30)

やっとフライトできた、上海経由で9時間の飛行、雲が多くて何処を飛んでいるかわからない 機内では飲み物(ビール、ワイン、ウイスキー等)十分あった。

日本のパーティーは少ないようだ。

カトマンズ空港にはCOSMOから迎えにきていたが、車に乗るまでの10mを地元のポーターに荷物を勝手に運ばれ、チップを3000円も払った隊員もいた。

ポーターの荷物取り合いは、ここ数年は規制されていたが、また復活しているようだ、要注意。

COSMO TREKに挨拶、今後の日程について打ち合わせる。

フライトが1日遅れたので、カトマンズ出発を1日延ばせがよいと考えていたら「準備ができていますので予定通り明日出発して下さい」とのこと。

ネパールの情勢について(大津さんから)

- ①今はダサイン祭(10月2日~7日)、ネパール最大の祭り(日本の正月)で官庁も全部体みで人はいません。
- ②マオイスト(毛沢東主義ゲリラ)について、「今回のルートでもいないとは言えません、もし 遇したら抵抗しないで金を払って下さい、一人1000ルピー程度と聞いています、それから 警察や日本大使館には近づかないように」とのこと、物騒な話だ。

ムーンライトホテルに着き、不足の個人装備を購入する。

10月3日(金) カトマンズ(6:30)~ポカラ13:50)

チャーターパスに隊員6名とガイド、キッチン、ポーター計20名に食料、装備を積み込み出発 片道1車線の一応アスファルト道路を走る、車窓から見る街はダサインで襲わっており、ヤギ を連れて歩いている人が多い。もうしばらくするとヤギは祭りのご馳走になることだろう。 途中軍の検問所があり、ネパール人はパスから降りて100m位歩かされる。そのため車の渋滞 が続くが、そんなことはおかまいなしだ、途中の街では水牛やヤギの解体が行われ、パナナ の葉に等分に分けられていた(1家では1頭は買えないので分けているとのこと) トラックの荷物もすべて人力で積んでいた。オンボロのトラックに荷を満載し黒煙を吐いて走っ ていた。

やっとの思いでポカラに着いた、チベッタンホテルで雲のベールに包まれたマチャプチャレを見ながらビールで乾杯。

10月4日(土)晴れ ポカラ(6:30)~ナヤプル(8:00)~ガンドルン(16:45)

ダサイン祭用か?市場へ急ぐヤギの群れに道を塞がれながらチャーターバスは進む、ノーダラ 峠でマチャプチャレ・アンナプルナ山群をバックに写真に収まる。

峠までは段々畑に米、ソバ、コドが見事に植えられている。

ナヤプルで車を降り後は16日間足のみが頼りだ、谷へ下りあの尾根を越えて行くのか? ここで啓子はトゲ草の根をつかんで悲鳴をあげる、イパラのトゲがささって手がしびれヒイヒイ 言っている、医療担当の明が応急手当をする。

ガンドルンまでは800mの登りでとても暑く、それに初日とあってきつい。

途中、学校の庭で子供達が竹で組んだブランコで遊んでいたのに、石井も加わりスイングを 楽しんだ。

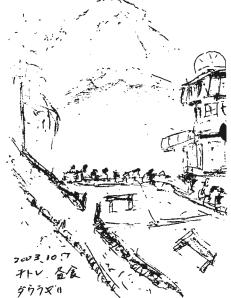
今日からいよいよテント生活、隊員用のテントが3つ張られ、松岡夫妻、加藤夫妻、石井・明に 分れる。

ガンドルンで日本人トレッカーから、ゴラパニでマオイストに1000ルピー払ったとの情報をガイドが聞いてきた。

10月5日(日)晴れ ガンドルン(7:40)~タダパニ(14:25)

今日からは山登り(高度を上げる)で、一度沢に降り、また登りとなる、峠のバルシカルカでは 15匹位のサルの群れを見た、石楠花の大木が続く密林で木はコケで覆われていた。 タダパニに着いて、またもや啓子にトラブル発見、足を数箇所山ヒルに食われ血が止まらない 医療担当の明が消毒したり薬を塗ったりおお忙し、山ヒルは兩期にはいると聞いていたが 実際に見たのは初めて。





10月6日(月)晴れ タダパニ(8:40)~ゴラパニ(15:40) デオラリまでの沢には野草の花が沢山、特に桜草の花 が綺麗だったのでカメラに収めた、また、途中に小さな 発電所もあった。

デオラリから先は尾根道で展望が素晴らしい、ここからカリガンダキ方面が見え、特にダウラギリ・ツクチェピークも見えてきた、プーンヒルも見える。

ゴラパニに着き、買物をしたりくつろいでいたら、ガイドがマオイストを連れてきた、マオイストは2人で1人は20才位の男でもう1名は15才位の少女、手書きの英文を見せ「1人1000ルピーカンパしてくれ」と言っている、各隊員から1000ルピーづつ集め6000ルピー払うと領収書をくれ「またどこかで請求されたらこれを見せればよい」と、にこやかに各隊員と握手を交わし分かれた、マオイストについてはGOSMOで聞いていたが、実際会うまではどんな人が来るか心配していたが、これで一応安心した。

10月7日(火)晴れ ゴラパニ(6:00)~プーンヒル~シーカ(15:35)

朝食前にプーンヒルへ、たいへん眺望の良い所で頂上の鉄塔に登りダウラギリやアンナプルナ 等白い峰々が360度見渡せ、素晴らしいヒマラヤのパノラマを満喫した。 チトレで北海道から来た日本人トレッカーに会う、これまで30数回ネパールに来たととのこと マオイストを避けるためにゴラパニに寄らず真っ直ぐチトレに下ったとのことで、ガイドと2人で

10月8日(水)晴れ シーカ(7:50)~タトパニ(12:30)

石井は、朝から1時間程散策。

ロッジ泊まり。

フェディからはアンナプルナトレッキングのメインルートのためか人やロバの通行が多い、 ロバはリンゴ、トウモロコシや米を運んでいるとのこと。

タトパニに着き、1週間ぶりに温泉につかってのビールはおいしい、洗濯をしたりマッサージをした隊員もいた。

ロキシー(焼酎180ml)を買いに行ったら、4本で売る切れ、あと無いかと主人に話したら、街中を回って8本探してきた(酒については明も熱心、相手も熱心)

明日は休日なので、のんびりとくつろぐ。

10月9日(木)晴れ 休日

今日は久しぶりの休日で朝食10時、石井はセミの声を聞きながら河原を約2時間散策した。 温泉に入ったり、マッサージしたり、栄治、功一、石井は地元の子供とカリガンダキ河で水泳 急流に流されながらの水泳はスリル満点、身体が冷えたら温泉で暖めた。 隊員とガイド、ポーター全員で記念写真を握ったり、休日をのんびりと過ごした。

- 10月10日(金)晴れ タトパニ(7:00)〜ガーサ(17:00) 途中、大トカゲ(30cm)や、犬鷲を見る、ルクセコーラではロパの画際と出会い待機、滝の 写真を撮った。
- 10月11日(土)晴れ ガーサ(7:00)~コパン(15:00) 途中、母子連れの日本人トレッカーと話す、ネパール人と結婚してポカラでロッジをしているが 今は暇なので子供を連れてトレッキングしているとのこと。 カロパニからはカリガンダキ河の中を歩く、石井と明はアンモナイトはないか、しきりに石をたたいていた、高い吊り橋を3つ渡るとコバンに着いた。 コパンの町はダウラギリからの洪水により寺院やリンゴ畑が流された跡があった。
- 10月12日(日)晴れ コパン(7:10)〜ジョムソン(15:30)

 途中休憩したツクテェの街は裕福な街で、日本への留学が多いとのことで町並みが綺麗。

 ジョムソンでは鶴が越冬ちへ帰還のため、上昇気流に乗って飛んでいた。

 夜、テントの近くでオオカミ(野犬)うなる声が怖かった、それを聞き街中の犬が吠えいた。
 - 10月13日(月)晴れ ジョムソン(7:30)~キンガー(16:05) 川幅が500m以上もあるだろう河原を歩き、エクリバッティでカリガンダキとも分けれ、トロン パス方面へ、これからゆっくりした登りが続く。 キンガーのキャンプは風で舞う土は埃りがひ どかった。
 - 10月14日(火)晴れ キンガー(7:50)~ムクチナート(10:00) 途中の集落では山水を引いて、家の近くにはポプラを植え、木材やマキに使用していた。 ジャルコットは城壁に囲まれた様な街で、 チベット的な雰囲気だ、プラタナスやポプラの 紅葉が綺麗。

ムクチナートに早く着いたので洗濯したり、 日向ぼっこしたり、のんびりできた。

10月15日(水)晴れ 休日 功一夫妻は高度順化のやり直しのため、 ジャルコットまで下る。 他はドルメパガンパ(石火寺)へ散歩、 途中石井はポターと近くの山(4,500m)へ。 後で明と石井はアンモナイト探しに行ったが 成果ゼロ、ガイドのビスタは明日行くトロン パスBCの下見に行った。



10月16日(木)晴れ ムクチナート(8:15)~トロンパスBC(11:30)

トロンパスBCはあんがい低い所(4,200m)で、ロッジが1軒あり、少し上部に水場がある。早く着いたので高度順化のため2時間程(約4,500m)まで登る、帰りに明はアンモナイトを拾った。

BCに降りても百合子の調子は回復しないので、明日のアタックは取りやめBCに残すことにした。(ムクチナートで洗濯した時、水が冷たかったので風邪をひいてしまったようだ)

10月17日(金)晴れ トロンパスBC(3::)~トロンパス(8:45~9:30)~BC(13:40) 今日はアタック、2:00起床3:00出発、ヘッドランプの灯りで出発、月も出ており明るい 峠が見えるので喜んでいると、また先に峠があり、なかなか着かない、寒さで手足がしびれる 凍傷にならないように指先を動かした。

前日まで暖かかったので甘えていたら、寒さが厳しい。峠の1時間程前から石井は高山病か? 岩や山が二重に見えてきた、息苦しく皆について行くのがやっと、頂上についてホッとして、 暫くボーッとしていた。凍ったにぎりめしを食べて少し回復し、功一と反対側の景色を見に行き 写真を撮った。帰りには路に落ちている塵を拾いながら帰った。

トロンパス(5,416m)まで高度差1,200mを、行き5:45分帰り4:10分と約10時間の長いきつい1日であったが、目標を達成できて嬉しかった。

10月18日(土)晴れ トロンパスBC(8:10)~カクベニ(15:30)

今日からは帰路、朝キャンプの近くにヤクが教頭いたので、写真に収めた。

見わたすと、はげ山の中にオアシスの様にたたずむ小集落や古い城壁のジャルコット寺院タルチョが懐かしい、プラタナス・ポプラの紅葉が綺麗だ。

カクベニはちょうどソバの収穫時期であった。

ここはチベッタンの最南端の街と宮われるだけあって寺院が多い、タルチョやマニ車あり 古い城壁を利用した民家と、ロッジが並ぶ新しい街の2面性をもっていた。

私達のテントは牛馬の運動場に張られ、回りを牛馬がウロウロしていた。すぐ隣の囲いの中にはヤギが300頭程いた。

10月19日(日)晴れ カクベニ(8:00)~ジョムソン(12:00)

カリガンダキ河を下る、午後になると砂嵐がひどいので午前中に降ることにした。 石井と明はアンモナイト探しに夢中だが1つの成果もないので石を拾って帰る、外国人もしき りにアンモナイトを探していた、途中河原の大きな石に「オムマニペベフム」と書かれていた。 ジョムソンではホテルに泊まり、トレッキングの解散式をする、ガイド・ポーター全員に200 ルピーのチップを渡し分かれをおしんだ。

今日の夕食は最後とあって豪勢、COSMOからビールの差入れがあり、ヤキトリ・ステーキ・チキンフライ・野菜サラダ・菜葉のゴマあえ、最後には手づくりのケーキまで出た。

10月20日(月)晴れ ジョムソン(フライト7:00)~ポカラ(7:20)

空港使用料1人165ルピーを払う、機内から自分達が通ったカリガンダキやプーンヒルが見えまた、空から見るマチャプチャレも素晴らしかった。

ポカラではチベッタンホテルに落ち着く、洗濯してからフイッシュテールロッジに行き、ガーデンを 散策し昼食する。

このロッジは有名で、日本の皇太子(現天皇)やチャールズ皇太子が泊まった経歴もある。 帰りはペタワール湖を名物のイカダで渡る。

10月21日(火)晴れ 休日

功一夫妻は休養、他はペタワール湖の対岸の山上にあるパゴタ(日本寺院)妙法寺へ登る。 里山の散策で、野鳥のが多い、寺からはペワ湖とマチャプチャレの眺めが素晴らしい。 夜は全員でネパリーダンスを見ながら夕食、舞台で一緒に踊った隊員もいた。

10月22日(水)晴れ ポカラ(ツーリストバス7:30)~カトマンズ(17:00)

ツーリストバスでカトマンズへ向け出発、途中で昼食(日本人経営の綺麗な店)、軍の検問で交通渋滞、1日がかりとなった。

カトマンズのレストランでごうせいに夕食(野菜炒め、エビのテンプラ、八宝さい等)

10月23日(木)晴れ 休日

COSMOへ帰着の挨拶、その頃から皆んな腹痛を訴え急いでホテルへ帰りトイレの番をした。 (昨夜食べたご馳走が悪かったのでは?)

栄治と明は散髪へ、料金は60ルピーだったが100ルピーあげた。

功一夫妻以外は、街へ出てレストラン桃太郎でナスの味噌炒め定食を食べた。

百合子はオカユを頼んだら地元のスープで炊いたオカユが出た、臭くて食べられなかった。

10月24日(金)晴れ 休日

功一夫妻はホテルで休養(百合子発熱のため)

丘の上にあるスワムナート寺院へ、この寺院はチベット仏教とヒンズー経は混在している。 途中川を見てびっくりした、橋の上からゴミが捨てられ、そのゴミの山に人間・牛・豚・鶏が たかっていた。

国立博物館では、日本からの寄付であることを説明してくれた。

ダルパール広場は祭りの最中で、動けないほどの人だかり、入町料を取りに来たので巻いて帰った。物売りは追い払っていたが、無理して入ってきた三輪車は警察が来てタイヤの空気を抜いていた。

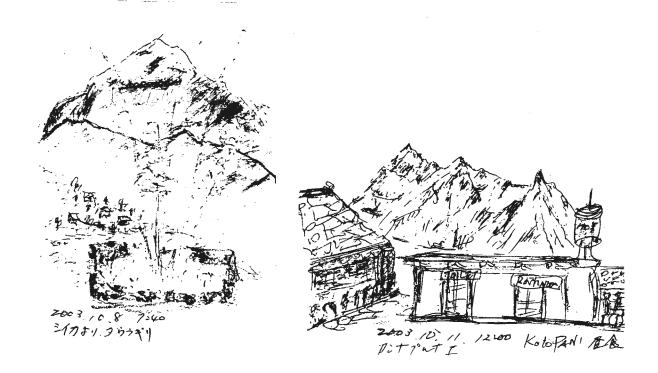
夕食はタメールの、味のシルクロードで日本料理を食べた。 百合子は白いオカユを頼んだら、牛乳で炊いたオカユが出た。

10月25日(土)晴れ 休日 夜カトマンズから帰国

ボダーナート寺院、パタン古都見物。パタンでは「入町料500ルピーくれ」というので、「高いから止める」とう言うと「ではディスカウントする」と言ったが入るのをやめた、タクシーに乗ろうと裏道を歩いていたら、結局パタンの街を見てしまった。(金を払わずに済んだ)ネパールで1カ月よく遊んだ、COSMOの迎えの車でカトマンズ空港へ。皆んなアンモナイトや石の重いのを入れているので、荷物の重量がオーバーしないか心配したが、少しオーバーしたがOKしてもらった。

10月26日(日) 関西空港11:25着

1カ月の旅、トラブルもなく無事に済んだ、なにもかも忘れた楽しい旅であった。 一路、新幹線を乗り継ぎ熊本へ。



ネパールヒマラヤトレッキング

松岡 樂治

カトマンドウの人、人、リキシャ、三輪自動車、タクシー、パス、トラック(どれも 見るからに中古)、の雑踏の中、のんびり寝そべっている牛や犬の姿が印象に残る。 また、ボカラのホテルのベランダから見た雲をかぶったアンナプルナ山群やマチャプチャレの眺めは絵葉書を見るようであった。

ナヤブル(1600m)から歩き始める。15日間のテント生活と歩け歩けの生活が始まった。 食事はコックたちが日本人の口に合うものを料理した。大袈裟に言えば、レストランのフルコースを食べているようであった。

心配の一つであったトイレは、私たちの三つのテントとガイドのテント(食事場所にもなる)から少し離れた片隅にトイレテントが張られた。ロッジのトイレを使えるところもあった。バケツに水がためてあり、ひしゃくですっくて流す水洗トイレである。

最初の二日間は、足がもつかなと言う心配をしたが、タトパニで体養日があり、カリ・ガンダキ川沿いにある四角い電天風呂で洗濯をし、お湯につかり、ビールも飲んで体力回復。

シダが生い茂り、10メートル以上もある石南花のある林の中を歩いたり、橋のない河をわたったり、急な坂道を登ったり下ったり、ロバの一隊が背にリンゴやピールや日用品を積んでベルを鳴らして通るのを土手側に除けて通り過ぎるのを待ったり、小石がごろごろした川底を珍しい石やアンモナイトを探して歩いたり、吊り橋を渡ったり、チベット風の荒涼とした景色の中を歩いたり、ミカンやリンゴを買って食べたり、石畳の道を歩いたり、夜、テントにマオイストが来て一人1000Rsずつ要求されたり、数カ所でトレッキングの検問を受けたりと思い出は尽きない。

テント生活14日目、2時起床、3時、ヘッドランプと屋明かりを頼りに、坂道を登り 始める。皆、黙々と歩く。夜明に小休止。弁当のガチガチしたおにぎりを二口かじる。

9:15、目的地のトロンパス(5、416m)着。私たちとは反対側から登ってきたトレッカーたちが記念写真を撮っている。岩場に安全を願ってか小旗がいくつも吊るされた網が数本つないである。記念写真を撮る。私はビデオ撮影。(後日見たらあまり良く撮れていない。)手足の指先が少しかじかんでいるのが感じられる。チーズとリンゴを無理やり口に入れ水を飲む。昨夕、ペットポトルに入れたお湯が凍ってじゃらっじゃらと音を立てた。20分ぐらい居て、B. C. のテントへ引き返す。2:30分着。用意されていたラーメンが美味かった。夕食時、きつくて、寒かったがやり遊げたという満足感がじわじわとわいてきた。食事のテントの真ん中には、明かりと暖房をかねた50センチ高位の大きなカンテラが置かれた。

ネパールヒマラヤトレッキング感想

松岡 啓子

ナマステ (こんにちわ) から始まった。夢に見たヒマラヤトレッキングが実現出来 て満足。私は高齢者と肥満のハンデイを持っての挑戦でした。富士山以上の5、416mと聞い ただけで気の遠くなる夢のような話のように受け止め、夢と不安が交差しながら準備をし ましたが、目的地トロンパスに到着したときは感動、目的達成に満足でした。

朝3時にBCを出発、ヘッドライトの明かりで登り、ご来光7時15分まぶしい。呼吸を整え、ガイドのビスタールの後にぴったりとついて登ったのがよかった。9時15分 トロンパス着、感激で写真を撮りまくった。下山するのがおしいが、高山病にならないようBCに帰った。

テント生活15日間のハプニング数々。ナヤプル到着時、小川を跳んだとき掴んだ草が 毒草で痛みと痒れが2日間つずいた。その次の日は、お尻と足から血が流れでていた。 皆んな一瞬、女の月のものの復活かと驚き騒動したが、山ヒルが血を吸って落ちた上に座 って潰していたことが判明。救護係の出番となった。タトパニでは川沿いの電天風呂に水 着で入った。混浴で欧米人が多かった。すぐそばに、ヨシで囲んだマッサージ場があった ので、人並みにマッサージを受けた。ところが驚いたことに、上半身水着をはがされまし たが、旅の恥はかき捨てとあきらめました。大変上手でした。現地の人は、入浴の習慣が ないのか湯舟から流れるお湯で髪や体を洗い洗濯をしていた。また、ゴラパニでは恐れて いたマオイストも現れた。1000ルピーを払って事なきを得た。テントの中までロバの 首に付けた鈴の音が朝早くから夜遅くまで響き、その心地よい音に元気がでた。また、日 本から持参した特効薬のウイスキーやブランデーを飲み干したあとはキャンプ地についた らすぐに酒屋を探し、数本買い求めるのが定番になった。BCまで飲めたのは元気の証拠 でもあり、元気の元でもあった。それから、ガイドやポーターやコックの人達には、しば しば頭の下がる思いをした。どんなつらい時でも歌を忘れない笑顔を絶やさない。二人の 女性のポーターでも30キロの荷物を背負い走って追い越してゆく。私は自分の身体すら ままならないのにと感心した。ヒマラヤでの移動は、人の足かロバか馬であり、雨季に流 された道なき道や断崖や川を荷物を背負って選んでいる。山の美しい景色だけでなく、そ こに住む人の素朴な生活に心ひかれた。私たちの夢が実現しのは、企画したリーダーやお 世話を頂いたその他の多くの人のおかげだと感謝しています。



医療担当:加藤 明

隊長加藤功一他5名、私は医療担当及び嗜好品担当で参加した。

まずカトマンズからポカラへはチャーターバスで移動、ポーターの皆さんと一緒だったのですぐ 仲良くなる、違和感はなかった。

移動中の感想は、景色、地元の人の服装等、初めてのものばかりで感動したが、道路事情の悪いこと、信号もない交通ルールもない、あるものといったら道路の真中の大きな岩、ほこり、クラクションの波(クラクションには音色が幾つもあるそうで、これが交通のルールかも?)

また、ちょうどネパール最大の祭りである「ダサイン」の最中で、車も人出も多かったようだ「ダサイン」祭はヤギを女神に捧げる行事だそうで、車窓から見る道路の左右に数えきれない程のヤギが天に昇る準備中、本当は神に捧げた後のご馳走が楽しみだとか、ネパールからヤギがいなくなるのではと心配していたが、山に入って見てヤギが沢山いたので安心した。

それはさておき、ナヤプルに着いたら2つの出来事が待っていた。姉がトイレの帰りに土手の草をつかんで「電気が走ったように痛い」と言って飛んで帰ってきた、毒針草をつかんだようだ、すぐに薬を塗ったが、1日中痛んだようだ。

もう1つは、合流するはずのポーターが1人いない、一瞬ドキッとしたが、事情は「ダサイン」 祭に参加するためとのことで安心した。

10月4日8時20分いよいよキャラパンの始まり、川を渡ってすぐにロバ隊の一行と会った、初めてネパールに来た感じがした。

稲やコドの植えてある段々畑が延々と続く小集落、子供と会うと「ナマステ」、「スイート」 大人も「ナマステ」と気軽に挨拶、お爺さん、お婆さん、外国人すべて「ナマステ」とにっこり 隊員の中で「ナマステ」と間違えて「ダンネバー」(ありがとう)と言って、笑い話となった。

以下、毎日の出来事は記録担当に任せることとし、私の惑想を記します。

- ・ネパールへ行って、40~50年前の自分を 見た気がした
- ・ヒマラヤはやっぱり、山のスケールが違う
- ・外国人に対して、地域の人がやさしい
- ・学校に通っていないと思われる子供が多い のに心が痛んだ
- ・貧富の差がひどいと思うが、道で会う娘さんの服装にぴっくり、近くにそんな富んだ家はないのに
- ・段々畑、本当に耕して天に昇るとは、このことかと思った
- ・どこまで登っても水が飲めない理由? (5000mまで動物がいる)
- ・山の道端でするウンコは、ヒヤラヤを眺めながらなんとも言えない、いい気分だった
- ・買い物が上手になり、楽しくて楽しくて
- ・最高、こんか楽しい旅は初めて、最後にならないようにしたい



百聞は一見にしかずと申しますが、今回の旅ほど、その感を強く感じたことはありませんで した。

何回も主人を見送るばかりで、そのたび、みやげ話を聞いても、いまいちピンときませんでした。 自分の目で実際に見て、はじめておどろいたり、感動することが沢山ありました。

まず、一番おどろいたのは、カトマンズの喧騒と塵と埃と車の警笛です、日本の何十年前の様な感じで、車は日本ならとっくに廃車するような車がほとんどで、タクシーに乗ってもドアの取っ手のないのやシートが破れているのもありました。それでも運転手はハンドルさばきもよろしく得意気に走っていました。

街はダサイン祭の最中で、どこからこんなに集まって来ているのだろうと思うほど、人・人・人の波、皆んな祭を楽しんでいる様子で、けいけんな仏教園らしく、チベット仏教やヒンズー教らしい日本とはまったく違う珍しい変った寺院がいたる所にあり、あとで観光したスワムナート寺院やボーダナート寺院、ダルパール広場、パタンの古都なども歩くのがやっとというほどの人出でしたが、どんなに私たちが歩いても危ないということはぜんぜんなく、その中を牛たちがゆったり歩いたり、寝そべったりしていました。

祭りのおご馳走らしいヤギの解体があちこちで行われているのにはびっくりしました。

ポカラにはいり、ホテルから目の前にマチャプチャレを見た時が一番慇懃しました。今まで、本 や写真や絵ハガキでしか知らなかった神聖なる山、マチャプチャレ、するどく尖った峰、夕日・朝 日をうけるたびに変る山の姿、その様が目の前に見れてうれしくて何枚も写真を撮りました。

いよいよトレッキングが始まりました、水牛の糞に悩まされたり、雨期の時はすごい大河となり 濁流となって流れるカリガンダキ河が、今は乾期で見渡す限り延々とと続く広河原、それらにか かっている目も眩むばかりの高くて長い吊橋、揺れるたびに悲鳴をあげた私。

やっと3,210mのプーンヒルに登ったかと思うと、とたんに下らなければならなかったり、澄んでまっ青な空のもと、雷をいただいた山頂からは雷煙が上がっている山々。 そんな中を、皆んな元気に歩いたものでした。

途中日本人に会ったのは、北海道からネパールへは35回目という男の人や、山下清そっくりの風貌の長野から来たという一人旅の青年、広島からポカラにお嫁に来たという母子(お母さんと3才の女の子)と変った人達ぐらいで、SARSやテロやそしてマオイスト、といった問題で日本人は敬遠しているらしく、ほとんど会わず、かえってそれも良かったかなと。「ユア・カントリー」と聞くと、イタリア、フランス、ドイツ、といったヨーロッパ系が多かった。

マオイストといえば、日本にいる時に思っていたのは、銃を片手におどされ、怖いといったふうに思っておりましたが、実際ゴラパニで(前もってコスモで話を聞いていた通り)マオイストがやって来て、「カンパをくれと言う」1人1000ルピーづつカンパしたのだが。

1人は20才位の男性、もう1人は15才位の可愛いい少女で、2人ともにこやかでぜんぜん怖くなかった、領収書までくれて「すみません、どうもありがとう」と言った様子で帰っていった。

カンパは外国人からだけもらっているようで、こわがらないように、このような人達をよこしたのかな? とも思った



また、途中でロバ隊にはたびたび出合った、山の中ではロバが品物を運んでくれる一番大事な輸送の足、何回見ても、その額・姿は可愛いく、首に下げているカウベルの音が耳に心地よく響いた。

子供達は着のみ着のまま、ネパールにはお風呂にはいる習慣がないようで、鼻もたれ汚れていて、はだしの子もいればゴムゾーリの子もいた。山奥では学校にも行かないような子供ももいるようでした。

しかし、のんびりした時の流れの中に、目がキラキラ・にこにこして人なつこく、ナマステと言ってこたえてくれる。生活はまずしいかもしれないが、生き生きとした姿が印象的でした。

女の人達は皆んな働き者らしく、集落の中にある一つか二つの水場で、よく洗いものをしていた。首には大きなトルコ石や丘サンゴのネックレスを着けている、一番大事な高値なものを着けているのではないか?と思いました。私など、日本人なら大事のものはしまっているのに・・と

畑は段々畑でずっとずっと上まで続き見事な棚田でした。利用できる所はどんな所でも利用していると思われ、稲・大豆・ソバ・野菜など植えてあり、日本の休耕田、荒れた田畑が考えさせられました。

ドッコという竹で纏んだ大きなカゴに草などを山ほど積み運んでいるのは、子供か女の人でした。家は、石や赤土で造られており、外から中が見えるが、簡単なベッドとクドのほか質素な生活用具、しかし鍋・皿などは銀でできておりピカピカ磨いて並べてありました。何もなくても、シンプルで生活できるんだな、日本の我が家の物の多さにも考えさせられました

私は、途中ムクチナート(3,900m)で、手が痛いような冷たい水で洗濯したのがいけなかったのか、風邪をひいてしまい(初めは高山病かもしれないと、休養日を利用して功一が下の集落まで連れて行ってくれたが直らなかった)頭の痛さと鼻水が出て、のどが痛くて声を出すのもつらい症状になり、BCから高度順化で4,500m地点までは行けたが、最終目的地のトロンパス(5,416m)には、皆んなに迷惑をかけてはいけないと思い断念したのが心残りでした。

BC(4,200m)で、皆んながどうぞ無事で登れますようにと、テントの中で一人祈っていたのが通じたのか、全員無事に疲れ果てて帰ってきた時は、姉と抱きあって泣いた。 一人トロンパスまで行けなかったのは残念なことでしたが、日本の富士山よりず一と高い所まで登れ、主人はじめ兄弟・姉妹そして友人がひとつとなりトレッキングできたことはほんとうに嬉しいことでした。

身体(体力)、暇(時間)、金、まわりの理解と協力とどれが欠けてもできないことだし、夫婦で 1カ月も日本を留守にしてトレッキングしたり見物したりできたことに、まわりのことすべてに感謝しながら帰途についたものですが、まだ去りがだく、もっともっといたい心境でした。

あのカトマンズの喧騒の街と、マチャプチャレが目の前に登える静かな街のポカラと、雄大で360度の眺めの中に見たダウラギリ・ニルギリ・アンナプルナ等の山々、そしてずーと旅を共にし、仲良く過ごした、ガイド・キッチンボーイ・ポーターの16名の人達が心に焼き付いています。

2003年12月29日 絵と編集 加藤 功一

『県境の山』補遺について

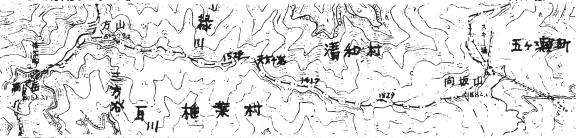
(5421)本田誠也

平成10年(1998)秋から始めた熊本県境の山歩きは、熊本支部設立45周年目の平成13年(2001)12月に一応終了しました。一応と断わったのは当初予定していたポイント(到点だ)で確認出来ないものがあったからです。心残りがありましたが翌年の平成14年は、「新日本山岳誌」の原稿執筆などで時間がとれず、落穂拾い(補遺)に取り掛かったのは平成15年秋からになりました。

県北の荒尾市と福岡県大牟田市から、県南の水俣市と鹿児島県出水市まで九州最長の436報に亘る県境線は、実際に歩いて見て様々な形をしていることが解りました。筑肥山地や九州脊梁山地、県南の国見山地のように明らかに分水嶺となっている部分のほか、津江川、杖立川など筑後川上流部、大野川や五ヶ瀬川上流部、県南の綾北川、川内川上流部、水俣市の境川などの水系が県境線となっているところや、久住高原、山東原野、槻木川など水系を横断している箇所もありました。できるだけ県境線(ライン)を歩きたかったのですが、林道が普及したため尾根伝いの山道は姿を消し、低い里山も人手が入らないため荒れて通過が困難になっていました。それでも地域のポイントとなる三角点や標高点、峠などは是非踏みたいと計画しました。ほぼ目的は達したと思いますが、補遺として歩きたい地点が幾つか残りました。今回はその「県境の山」補遺としての最終記録です。

県境の山、最大の難コースとされていた霧立越山地の主峰・向坂山から、緑川 源流の山、三方山まで約6 報の縦走に挑戦した。かっては九州脊梁特有のスズタ ケに覆われて人の通過を許さぬ難コースであったが、永谷誠一会員および地元、 清和村の奈須昇氏など九州ハイランドのメンバーにより、長大な縦走路が伐開さ れた。これは小川越から小川岳、向坂山、三方山、椎矢峠を経て高岳、国見岳に 至るもので、大変な労力と努力を要した偉業である。しかも自然環境に配慮した 先人のような道づくりを見て、深く感心させられた。かっては深いヤブ漕ぎと見 通しの利かない難ルートで通過には数日を要したが、今回は東西の2班に分かれ て一日で交差縦走を果たした。先ず西班(三方山)の記録から…

矢部町の霊台橋で東班と分かれた西班の3名(本田、廣永、松本)は、緑川の 支流・内大臣川に沿う椎矢林道を椎矢峠1400m まで四輪駆動車で一気に駈け上が る。10:15 三方山登山口からスズタケの切りわけ道に入る。この道は昭和の初め 頃までは上椎葉の人たちが矢部へ越す駄道(生活道)であった。その頃は各所に 草葺きのナバ(茸)切り小屋が掛けられていたものである。早速、廣永会員がナ ラタケの群生を見つけて採取する。三方分かれの峠から数分で三方山 1577.5mの 3等三角点に着いた。10:48~11:00 ここは北の緑川(鱗薫醐)と南の耳川(蟷巣鱗) の分水嶺である。携帯電話で東班と連絡をとる。向坂山の北側、山頂直下を登高 中と返事があったので縦走を開始する。陽光燦々と降りそそぐ秋晴れの好天気、 細い山道を緩やかに下る。11:20 1520m の鞍部に着いた。九州ハイランド協会(M ホ KHI)の**距離標識あり… → 鹹山5000m**/E加600mとあった。11:35 尾根が広がったと ころに「分水古桜」の標識あり。南側にそれらしい巨木があるが樹種は不明… 11:43 峨山4600m/三加1000m 標識通過。12:05 ·1529m補点標石。東側から人声がす るのでコールをかけるが応答なし… 緩やかな登りが続く。前方に岩壁が現われ たので北側を巻いて登ると、東西に長い岩上に14~5人の人影が見えた。女性も交 じる中高年の登山パーテイで昼食をとっていた。11:18 天女ヶ岩の標識あり。こ の熊本市立田口の登山サークルと入れ替わって我々もランチタイムとする。岩上 から南側の展望が広闊である。霧立越、向霧立越など九州脊梁山地の主要な山々 が一目で見渡せる。やがて声がして向坂山班の田上会員が岩上に駈け上がってき た。20分ほど手前に他のメンバーを残して来たと云うので、12:50 縦走を再開 する。13:00 麻山3500m/三加2100m 13:15 麻山3000m/三加2600m 13:20 向坂山班と 合流する。ここで**交差縦走班**を再編成する。松本会員がここで折り返し、藤本会 員、田上寿美子さん、叡一君が同行して三方山へ… 向坂山からきた田上、菅会 員が折り返し、本田、廣永会員が同行する。この辺りから向坂山にかけて尾根は スズタケの密生地に入る。露岩も多くなり縦走路の伐開にあたった永谷グループ の苦労が偲ばれる。14:10 鹹山2000m/三加3600m 14:28 鹹山1000m/三加4600m 緩やか な登りが続き向坂山のドームが近付いて来た。14:48 峨山500m/E加5100m モミ、 ブナの大樹が尾根を覆い、愈々フアイナルピークも間近い… 15:10 向坂山 AI 1684m 交差縦走達成! 全員握手を交わして祝う。一番喜んだのは喜寿を超えた 本田会員であることは云うまでもない。10:17 北側の五ヶ瀬スキー場上部リフト 駅目指して一散に駈け下る。15:30 リフト駅駐車場。車2台に分乗して鞍岡、馬 見原、浜町を経由して内大臣橋へ… 車がパンクして少し遅れた三方山班と合流 して解散とする。 (本田·記)



「向坂山縦走班の記録」 踏査者 菅 隆雄 藤本多加志 田上敏行・寿美子・叡一

霊台橋で三方山縦走班と別れ、2台 の車に分乗して国道 218号線を東へ向 かう。矢部町、清和村を通りぬけ蘇陽 町に入る。馬見原の交差点を右折して 国道 265号線を五ヶ瀬川上流に向かっ て南下する。鞍岡を過ぎ本屋敷から右 へ折れると、正面に少し色づきはじめ た向坂山の山腹が望まれる。最奥の波 帰の集落を抜け、五ヶ瀬ハイランドス キー場専用車道を一気に上がりつめる と、やがて標高 1308mのカシバル峠に 着いた。峠にはスキーリフトの発着場 やロッジ、バンガローなどが立ち並ん でいるが、シーズンオフの今は人影も なくひっそりしている。峠からキンザ キリの水場を経て未舗装の林道を進む と、途中、白岩峠(杉越)登山口に7 ~8台の車が駐車していたが、道路脇に 2匹の子鹿を見つける。10時ちょうど スキーリフト上部駅に着き、管理棟横 に車を置く。ここから東側の展望が大 きく開け、祇園山や諸塚山など七ツ山 の山々が望まれる。スキー場の左斜面 を登り、色づきはじめたミズナラ、ブ ナ、ホオノキなどの巨木に囲まれた山 道を、厚い落葉を踏みしめて進む。 10時23分、自然林の中のひっそりした した向坂山(1684m) の山頂に着いた。 ここから南へ霧立越の主稜線が延び、 向霧立越山地と呼ばれる九州脊梁山脈 の主尾根が西へ連なる。山頂の西側に 「三方山まで5.6Km」の標識が立って いる。10時30分、スズタケの切り分け を三方山に向かって出発する。いきな り急な下りとなり、ブナ、ミズナラ、

カエデなどの広葉樹林の中、密生した スズタケの切り分けを緩やかに蛇行し ながら高度を下げて行く。奇麗に切り 分けられた登山道は思ったより歩きや すい。10分ほど下った所で展望のよい 場所に出る。正面に目指す三方山が聳 え、左へ高岳、国見岳、五勇山、白鳥 山と続く向霧立山地のパノラマが広が る。10時45分「向坂山500 三方山51 00m 」の標識を通過する。縦走路は緩 やかにアップダウンを繰返しながら西 へ進む。11時過ぎ「向坂山1000m 三方 山5100m 」標識を通過。11時12分、標 高1500m の鞍部に到達する。さらに5 分で1529m ピーク下に出た。ここで三 方山班と携帯が通じるがすぐ不通とな る。少憩の後、11時25分出発。切り分 け道は緩やかに下り、11時39分「向坂 山2000m 三方山3600m | の標識を通過 する。 尾根の南側(諡鼎鱗)は杉植林地 12時 5分、ブナ、モミの巨木に囲まれ た1417m ピークを通過する。さらに30 0mほど進み、最低鞍部(1400m) に下る 地点で休憩とする。コールをかけると 返事が返ってきた。最低鞍部を隔てて 岩峰(醂 対党) が立ち多くの人影が見 える。西からの縦走班がいるのか分か らないので、とりあえず私が偵察に出 ることにした。ピークの西端から数分 下ると「向坂山3000m 三方山2600m 」 の標識を見る。この道脇で茸を食べて いる鹿を見た。最低鞍部を経て石灰岩 峰を二つ越えると「向坂山3500m 三方 山2100m | の標識。さらに岩屑の多い 道を8分で天女ヶ岩の基部に着いた。 コールをかけると、昼食をとっていた 縦走班から返答がかえってきた。

(吐・記)

『県境の山』 平成15年11月22日 区間番号(3) A(研)193.6m 大津山 料頼剛/編県川 2.5제「関町」 踏査者 本田誠也

先ず、県境の山ではないが県境線か ら約1.5km ほど南に入った大津山に登 る。現在、大津山山麓一帯は「大津山 自然公園しになり整備されているが今 回は北側の遊歩道から登った。車道を 約 1.5kmで終点駐車場(170m)につき鳥 獣慰霊碑の横から登山道に入る。 山頂 まで300mの標識があるが間伐材を使っ た木段や手すりがつけられていて歩き やすい。約15分で「大津山城跡」の山 頂に着いた。途中、外堀にかけられた 木橋を渡るが夫々鑑元橋(結長)、新蔵 橋、家稜橋(いえかど)、資元橋(かりとと名 付けられている。いずれも大津山城に 関係が深い武将の名をつけたと説明さ れていた。木枯らしが吹き抜ける山頂 には大津山城跡碑と遺構があり、一段 低い北側に笠石が落ちた石碑と3等三 角点(256.1m)の標石があった。くっき りと晴れた空の彼方に噴煙をあげる阿 蘇山まで見渡すことができた。大津山 自然公園入り口まで下り、九州自動車 道と並行する国道443 号線を北上、約 1 ㎞で右折して狭いけれど舗装された 車道に入る。約1㎞で終点の駐車場に 着いた。「鈴木生産の森」と書かれた 標識が立てられている。駐車して左側 の急なコンクリートの階段を上がり、

タケ林の急斜面を登る。やがて灌木の ヤブを突っ切って尾根の上に出た。何 と新しい舗装道路が通じているではな いか… 左右に小高いピークがあり、 左方と見当をつけて道脇から踏跡もな い斜面を登る。イバラに覆われた山頂 をくま無く探すが三角点標は見つから ない。やむなく道路に下り右側のピー クに登ってみたが、ヒノキ植林地の山 頂にも三角点標は無い。標高は210m~2 30m 位なので、どうやら県境線を南に 逸れたらしい。時間も17時に近く寒 くなってきたので下ることにした。サ ンデー毎日の身分なので時間はたっぷ りある。また来ることにして往路を引 き返した。

『県境の山』…低山彷徨… 平成15年11月26日 区間番号(1) A(研)103.2m・359m 林県棚/御駅4師 2.5脳 「関町」 踏査者 本田誠也

三池山の南端に一つだけ残った県境の三角点ピークに登ろうとしたが、山口林道を終点まで行ってしまい、ササダケの藪をさ迷って三池山南峰359mまで行く。その帰路、県境線をトレースしようとして現在位置の確認ができず彷徨する破目になってしまった。低山と侮ったわけではないが、無闇やたらに歩き回って疲れた。久重林道の久重登山口から登り返したが、久重山はどこえいったか遂に見つからず…

『県境の山』 平成15年12月 3日 区間番号(1)(3)AN 103.2m AN 193.6m 熊林県南栗町/福岡県大牟田市・山川町 2.5万図 「**奥田**」 踏香者 本田誠也

前回、11月22日と26日のリターンマッチで ある。老いたりといえど、かかる里山 の三角点を見つけられないとは… と 再出馬することになった。先ず道順の よい南関町関東の県境に向かう。この 辺りの県境線は必ずしも分水嶺ではな く、枝尾根から谷を横断し、また尾根 を横断するなど理解し難い形を見せて いる。先日と同様、「鈴木生産の森」 駐車場(約100m) に車を置き西側の竹林 の尾根を登る。竹林の上部は雑木林と なり胸を突く急斜面をひとのぼりで山 頂部が切り払われた小ピークに立つ。 北方に山川町真弓の集落と鷲/巣山の ピークが見える。三角点を探したがこ こではないようだ。北側を掘り割って 東西に車道が通じている。西側、目前 にある小ピークを三角点峰と見て道路 を跨いで登る。藪を分けて南北に長い 山頂部についたが、ここにも三角点は ない。灌木を透かして見ると西側にや や低いピークが見える。藪を分けて車 道と並行する鞍部に下り、雑木林の急 坂を登り返す。東西に長い西の端に、 待望の三角点標が落葉に埋もれてあっ た。丸い4等三角点標で「戯饂地繋NO. 101014」と記されていた。嬉しくて何 度も丸く盛り上がった点標を撫でてい た。12時55分で、駐車場から1時 間10分もかかっていた。これが地図 にある103.2mの三角点ピークで、県境 線はここから直角に北へ折れ更に東へ 転じて三本の谷を越えて東へ延びてい る。帰路は30分足らずで駐車場に下 りついた。成功した三角点捜しの余勢 を駆って三池山南部の未踏の三角点へ 向うことにした。南関町を関川沿いに 北から南へ縦断して長山地区に至り、 いったん荒尾市に入って関川を渡り大 牟田市教楽木地区に入る。関川はここ から諏訪川と名を変える。橋際から山 口林道を約1Km北上して林道脇に車を 止める。東側に廃道となった荒れた林 道を歩く。ほどなく廃園になった果樹 園と住居の下を通る。藪化した林道は 竹林の中で終点となる。見当をつけて タケ林の中を急登し、ヤブを分けて這 い登ったところにお目当ての三角点が あった。標高103.2mの**御影**石の4等三 角点で約10分で到達した。ヤブの中で 展望はないが、北方に三池山南峰らし いピークが望まれた。ともかくも低い 里山に振り回された山歩きであった。 (教訓) 2.5 万図でも細かな地形は表 現できないこと… 現在地点の確認は 意外に困難なことが解った。或いは読 図力の不足かも知れない。県境線が如

何なる理由で決められているのか興味 のあるところだ。

『県境の山』

平成15年12月21日(日)

区間番号(33) 蘇納海原下奶630m~ 下切峠720m~ 丸山840m~最簸3740m~矢筈岳藤840m~ 矢筈岳雌·891m~下切山AIV937.

4m~最低鞍部740m~下切630m

熊本県高森町永野原/宮崎県高千穂町上河内

2.5万区「高森」「相母山」

踏查者 菅 隆雄 本田誠也 田上敏 行 加藤功一 石井文雄 加藤 明 加藤百合子 中根俊男 安場俊郎

前日、九州地方は猛烈な寒波に見舞われた。特に阿蘇地方は一面の銀世界となり今日の踏査が懸念されたが、明ければ雲一つ無い快晴で寒気も一気に緩んだ。集合地の高森町のスーパーASUKAの駐車場には9時前に9名の参加者が勢揃いした。道路凍結が心配された高森峠の外輪越えも、すっかり雪も解けて快適に車を走らせる。

10:00 下切集落の外れに車を駐車。早速、峠を目指して歩き出す。かっては交易ルートであった峠への道は、使われなくなって殆ど廃道状態。スギ植林地を抜けて 10:23 峠720mに着いた。峠の西側に祠があると見えて、小さな鳥居が建っていた。東へ比高差120mの丸山へ向かって県境線のトレースを開始する。途中、大きな露岩を越える所もあり可なり急峻な難路である。

10:55~11:05 昔、丸山城跡があったと伝えられる南北に長い丸山山頂840mに着いた。山頂部は南側と北側が一段低い平地になっていて、砦が築かれていたことを偲ばせる。県境線はここから直角に北へ折れる。最低鞍部740mまで急峻な岩稜を下る。鞍部の西側はスギ

の植林地で細い踏跡が下切集落へ向けて下っている。11:22 最低鞍部。ここから鋭く聳立する矢筈岳南峰840mを経て矢筈岳本峰までは、気を抜けない岩稜の難路が続く。本峰は南面に高い岩壁を巡らせ、一部はルートファインテイングに迷う箇所もあったほどだ。ここでは田上会員が準備した補助ザイルが役立った。12:10~40 狭い本峰ほ上でランチタイムとする。ここから4等三角点が設置された下切山まで、深く切り込まれたギャップに下り、また登り返す岩稜の難路が続く。

13:25 下切山。 4 等だが三角点標が あるので、全員で恒例の今西コールで 喚声をあげる。純白の樹氷に飾られた 祖母山群と、国見岳に続く県境線を見 渡して帰路に着く。往路に手をやいた 難路を恐る恐る下り、最低鞍部に着い たのが 15:00。ここからスギ植林地の 踏跡を下る。35分で下切集落の駐車地 点に着いた。暖かな林道脇の日だまり **で、県境線の山々を見上げながら暫く** 休む。『くまもと里山紀行』の著者、 栗原寛志(鮴田繝融諸) さんは、10数 年前に、このコースを歩いている。稜 線は雪が深くラッセルで苦労したと書 いているが、下切山について次のよう な記述があるる。

「峠からは、稜線沿いに山仕事用の踏み跡が続いていた。スギ、ヒノキ、雑木の尾根をしばらく伝うと、尾根は急に険しさを増してくる。下切集落の東側あたりまで来ると、岩峰の連続となった。このあたりが下切山と呼ばれているらしい。切り立った岩のピークをいくつか乗り越えると、雑木林が切れ屋望が開けてきた。そこまで来ると頂上も視界に入ってくる。|

(註)田上会員が地元の人に聞いたところでは、栗原さんが「下切山891m」と書いているピークは「矢筈岳」と呼ばれており、下切山は4等三角点がある937.4mピークのようだ。 或いは矢筈岳を含む岩峰群を包括して下切山と呼んでいるのかも知れない…

『県境の山』補遺 平成15年12月28日(日) 区間番号(6) 蘇県베嚮/綱県柳毗 陣床峠380m~A 434.0m~黒松峠390m 2.5万図「高井川」 踏査者 本田誠也

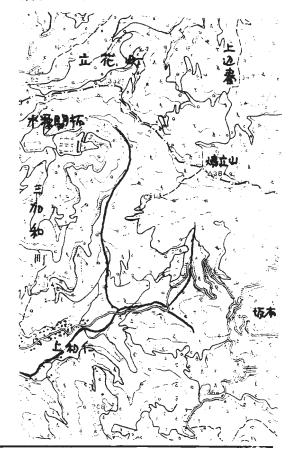
県北部、福岡県との境をなす筑肥山 地は、小栗峠から北上し男岳、女岳を 頂点に南へ転じ、鹿牟田峠南の上中地 区から東南へ進み最高峰国見山1018m を経て肥後、筑後、豊後三国の境とな る三国山へいたる30数キロの山群で ある。北は矢部川、南は菊池川支流の 水系は、何れも有明海に注ぐ分水嶺と なる。小栗峠と女岳の中間に1キロ足 らずの距離をおいて陣床峠と黒松峠が 位置しているが、この二つの峠は明治 以降小栗峠を経由する現在の国道3号 線が整備されるまでは、岩野を経て熊 本県側の山鹿方面と、福岡県側の八女 黒木方面を結ぶ主要ルートであった。 旧道は、藩政時代に番所がおかれた岩 野の中津川集落を経て、尾根伝いに登 り追分地蔵で二方向に分かれ陣床、黒 松の峠を越えて黒木或いは八女に通じ ていた。今回の目標は、この両峠の中 間にある434mのピークであった。5年 前の平成10年12月13日、県境の山とし ては最も多い17名が黒松峠から女岳 のコースに入った。三班構成で効率的 に歩いたつもりだったが、黒松、陣床 峠を担当した私たちが、竹林やミカン 畑の間を錯綜する道に迷い目的を果た すことができなかった。即ち、この三 角点ピークが一つだけ残ってしまった のだ。12:00 底野川にかかる中津川橋 を渡り、北上して底野集落から尾竜谷

川の橋を渡り、道路標識に従って黒木 越の峠に向かう。黒松峠に出るつもり だったが、いつの間にか県道 127号線 (器・駄) が通る陣床峠に出てしまった。 地図を按じて黒松峠側へ引き返したが 林道が行き止まりとなり、再度、陣床 峠を経て竹の谷道路公園に下り遅い昼 食をとる。13:20~30現在地が確認でき たので再度アタックする。陣床峠から 黒岩峠への林道中間に車を置き、植林 地の急斜面を強引に登る。尾根の黒木 町側は、よく手入れされた竹林で猪防 護用の電線が張り巡らされている。 最高点を中心に丹念に三角点標を捜し たが見つからない。南へ微かな踏み跡 を辿って行ったら、見覚えのある黒松 **峠に出ていた。コンクリートの地蔵堂** には、寛政何年かの古い台座の上に石 の地蔵様が2体並んでいる。一息入れ て鹿北町の黄色い県界標が埋められて いる尾根を北上する。意地でも三角点 標を見つけてやろうと、文字通り木の 根、草の根を分けながら最高点まで登 る。時間をかけて周辺を隈無く探した が分からない。県界ギリギリまで削り とった筍堀りの道造りでなくなったの だろうと勝手に推測して帰路につく。 鹿北町の主産業は良質の茶(揺隊、 段談) と筍で、特に筍は県下随一の生産地と して知られている。県境を挟んで隣り 合う福岡県の黒木町は茶と葡萄、そし て筍の生産で有名である。県境の地勢 は、東面或いは南面の熊本県側は急峻 であるのに比して、西面或いは北面の 福岡県側は緩やかな部分が多い。集落 も県境付近まで上がっている。車道が 通じる峠には、茶店がおかれた昔を偲 ばせるものはない。

熊本、福岡の県境線を形成する、こ の丘陵地を地元では「焼立山」と呼ん でいる。県界の南北側とも緩傾斜で、 昔は焼畑をしていたのだろう。山腹に 小さな溜池がいくつか残っている。 現在、中腹以下はミカン園、上部はタ ケ林となり筍収穫用の小道が縦横に通 じている。南関町経由で三加和町に入 り、和仁川に沿って北上し東へ折れて 山あいの集落、上和仁を通過する。 地図では3m以上の車道になっているが 山十町の坂本へ越す道路は車幅いっぱ いの狭さ… 峠を越えたところで引き 返し、上和仁集落の東側から北へ入る 狭い私有林道を上がる。ミカン園の上 部に車を置き、荒れた林道を登る。 この辺りの高度が250m位だから約140m 足らずの登りと気楽に歩を運んだ。 古い溜池を過ぎた上部で林道は切れ、 細い山道となる。300mを越えた辺りで 廃道化して踏跡になった道を辿る。 木の間ごしに県境稜線が間近かに望ま れる所で踏跡も途絶え、木の根を掴ん で右手の尾根に這い上がる。上部は一 面のタケ林で東側からの道もあった。 再び山道となり、程なく北側の立花町 上辺春の集落を見渡す峠に着いた。 ここまで約30分… ここから右へ灌 木を分けて三角点を目指して登る。 380mラインの山頂部は東西に約300mほ ど長く、南側は伐採されて水源涵養林

としての広葉樹が植えられている。 一番高い中央部の県界標付近で三角点標を探したが見当たらない。そばの立木に白い紙片が下がっているので見ると「県境の山 焼立山 384.9m ?」と書かれている。誰かが「県境の山」として登ったが三角点標を見付けられなかったらしい。

東側はタケ林で、そちらの方が少し高 そうなので行って見る。県界の立花町 側には炭焼竈跡らしいものがあり、耕 地跡もあった。三角点標を探して山頂 部を20分近くも探しまわったが見つ からない。県界標付近に掘った穴の跡 があるので、或いは推測したくないが 堀りとられたのでは…



『県境の山』補遺 平成16年 1月 6日(火) 区間番号(5) 南郷山 AT 302.1m 料県昭川州町線 福駅八城市 上路 水系十町(税制)/辺制(矢訓) 踏査者 本田誠也

国道3号線で小栗峠を越えて、一旦 福岡県立花町に入り、南へ折れて県道 6号線(昭~竦) で猿懸峠200mを越え熊 本県三加和町に入る。ヘヤピンカーブ で猿懸集落80m を経て打越から北へ林 道を上がる。地図で見ると、これが地 元で南郷山と呼ぶ302.1mピークの**最短** コースだと思ったからだ。しかし、こ の林道は200mほど進んだ所で、民家脇 に廃車が道を塞いで置いてあるので先 へ入れない。やむを得ず猿懸峠まで引 き返す。ヘヤピンカーブの角から北へ 林道を上がる。未舗装の狭い道はミカ ン畑の中を幾曲がりもしながら上に延 びているが、1Km ほどで先は廃道化し て進めない。12:40 車を置いて雑草が 被る道を登る。15分で県境の台地に 登り着いた。北の立花町側は一面のミ カン畑だが、実を着けたまま放置され ている。コンクリート製の貯水槽も空 っぽで使われていないようだ。地図を 按じて西北へ進んだが、すぐ藪に突き 当たる。茨や蔓草、倒木が行く手を遮 る。右に左に藪の薄いところを探しな がら進む。随分時間をかけて打越川上 部の鞍部に下り、藪が薄くなった雑木 林の斜面を登る。薪を採らなくなった 里山は、どこも藪化して荒廃している が、このまま自然に任せるのがいいの かとも思う。途中、石積みされた平地 があったが、古い住居跡なのか…

どこが高所か分からない雑木林の中にひっそりと立つ三角点標を見つけた。何と1時間15分もかかったのだ。山名標示も何もない、自然のままの山頂である。人が訪れた跡もない静たたずまい… しばらく休む。下山は方位を間違えて15分ほど町はたが、ゆっくり歩いて15時に駐車地に帰り着いた。里山と侮ったいちにはすないが、可中には多くの獣道(猪)があったが、日中なので出会う



『県境の山』補遺
平成16年 1月11日(日)
区間番号「32」 千間平 AN 1447m 筒ヶ岳 AN 1296m (大報) 約 1290m (株報) 約 1290m (株報) 約 1290m (株理高納津留字帳(こうら)/宮崎県高千穂町五ヵ所 2.5万図「福母山」「豊後相県)
踏査者 菅 隆雄(4439)本田誌也(5421)田上銀行 (6659)工藤文昭(8190)安場依郎(13889) 田ば博(サポーター)

祖母山西尾根は千間平から北西に越 敷尾根(越敷岳、ムレ山)を分け、さ らに緩木尾根(緩木山、高城山)を分 けている。千間平の南西端から西へ延 びる尾根は、約1.5km で筒ヶ岳を経て 豊後の大河、大野川源流部の築の谷で 終わる。この尾根は熊本、宮崎の県境 線となっているので今回、そのライン をトレースすることにした。同じく北 側の県境線となる越敷岳から千間平へ いたる尾根は、1965年 5月に歩いてい るので今回は割愛した。

踏査にあたって新しい地図(戦142月)を用意したが、従来標高点だった筒ヶ岳も千間平も、昨年10月に夫々IV等三角点が設置されていた。また県境線もその時、図根点設置や県界測量のため密生したスズタケを切り払らい、歩高くなっていた。神原(こうら)集落から約1.5kmで林道終点。先行者の車2台を上でいたが、我々の車2台も置くことができた。ここから祖母山登山道がスギ林の中を東へ延びている。

踏跡程度の路面だが、新しい案内標識がきちんとつけられている。等高線がつまった急斜面はジグザグに道がつけられ歩き易く配慮されているのは有難い。尾根の高点に登りつめると展望が

開け、西方に阿蘇や越敷岳、筒ヶ岳の 山々が望まれた。約2Km 比高差450mの 登りで県境尾根に到達、さらに300m余 の登りで千間平西端に着いた。ここで 新しいⅣ等三角点標を発見?して驚い た。11:45~12:15 寒風が吹き渡る山頂 に座って昼飯を食う。祖母山頂の純白 の樹氷が美しい。12:15 愈々県境線縦 走を開始する。密生したスズタケの切 り分けは地表から高く切られているの で歩き難い。数年で丈がのびて歩けな くなるのではないだろうか… 幾つか のアップダウンを経て、1時間きっか りで 13:15 新しいIV等三角点がたつ 筒ヶ岳(쎏៤の)に着いた。時間があるの で、荷を置いて筒ヶ岳(大端)を往復す る。北側に対峙する越敷岳は、国土地 理院のマップモニターしていた時に山 名の修正を申し入れたが、やっと地図 上の越敷岳は「ムレ山」に、従来こし き岩またはイボ山と呼ばれて岩峰が越 敷岳と修正された。この筒ヶ岳も修正 を提案したことがあるが、まだ修正さ れていない。大砲岩の往復で時間をと られたので、14時過ぎ、県境線のト レースを再開する。300mほど進んだと ころで、北側に派生する尾根に切り分 けを見つけ下ることにする。その結果 切り分けは程なく途切れ急峻な痩せ尾 根の下りで苦労することになった。 1時間余で牧場道に出てホッとしたが それから神原を通過して登山口の駐車 場まで長い歩きになった。標高840mの 神原は、戸数2~3 軒の山村で現在はビ ニールハウスでシクラメンやリンドウ などの花栽培をしている。新しく建て られた小倉家の墓に「安永年間から居 住して…」と書かれているのを見て些 か興味をそそられた。 (本田・記)

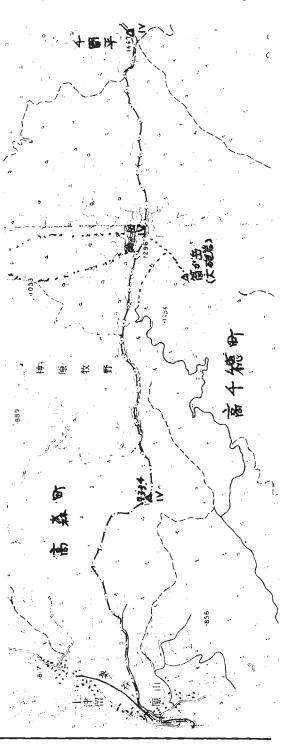
『県境の山』補遺 平成16年2月11日(水) 区間番号(32) AV 933.4m 鮮県・綱/宮嶼新棚 2.5 7 図「栂山 踏査者 本田誠也

前回(戦16年1月11日)千間平(AN 1447m) から筒ヶ岳(AN 1296m)まで歩いた時、時間切れで取りやめた西側の三角点ピークに登った。このピークは筒ヶ岳から2塚西側にある。因に千間平西尾根の県境線(約5.5km)は、このピークから約2塚の築の谷(約760m)で終わる。築の谷は、県境線となって約2塚西流し大野川の支流、大谷川に合流する。

た日来の降雪で路面が凍結しているため、高森町上津留集落から神原牧野(こうばくり)のゲートより1 採も手前に車を置く。雪道を2 採も歩いて西への分岐路に入り峠に出ると、間近かに県危を見定めて、それより200m~300m 東側の尾根の鞍部を目指して牧番小屋の横から登る。伐採跡の急斜面を直登したが思ったより雪が深く時間と体力をとられた。比高差60m 足らずの登りに40分もかかって尾根に登りついたが、お目当ての三角点ピークは、それから二つの小岩峰を越えた所にあった。

杉林の中に、ひっそりと丸型の4等 三角点金属標が埋設されていた。

帰路は西側へ1 報も登り返して、前回下った草尾根にルートを取った。 雪はなかったが、道のない急峻な下り で比高差200mに1時間を費やした。 しかし、これで千間平から4.5 報の県 境線をトレースできたことになる。



『県境の山』補遺

> (59) 段塔林道哥支梯程: 770m (高野場) 宮谷(三角点研) 728.8m(九電·宮 崎梯868号) …高野牧場… 東高野 AN 753m

熊木県人吉市・あさぎり町/宮崎県えびの市 2.5万図「白髪岳・肥後大畑」

踏查者 工藤、本田、田上、安場 田北(盆)

人吉市上田代町から段塔林道を経由 して県境線に入る。予め県境周辺の林 道の資料を集めていたが、ダートなコ ースを想定して四輪駆動車2台(工藤 安場)に分乗して出発した。ここ数日 来の快晴に恵まれたが、北面の谷筋は 残雪があり路面も凍結していた。 段塔山707mの南面を東へ回りこんだと ころで鉄山林道を分岐する。地図では 二重線の道路で広くなると思ったが、 却って狭く路面も荒れて期待外れだっ た。人吉市と、あさぎり町の境界にゲ ートがあったが幸い開けてあるので、 そのまま入る。大平山を源流とする又 五郎谷(炯)(城) を東へ3 類余で狗留孫 林道を分ける県境橋に着いた。鉄製の 頑丈なゲートが道を閉ざして入れない ので車を置いて空身で行く。来て見な いと分からないが、県界の谷に沿う熊 本県側のこの林道は既に廃道になって 久しいようだ。対岸のえびの市側は上

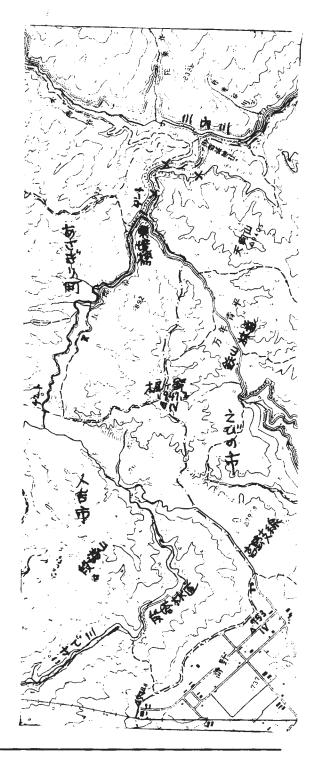
水道取水口になっており、天狗山トン ネルがぽっかりと口を開けていた。 終点まで行って引き返す途中で、コン クリートの橋脚だけ残った狗留孫橋を 見つけた。県境橋(昭2.10)を渡り県境 線沿いに万年青平(ホムとでぃら)へ向かう。 小さな渓流沿いに2 採ほどで大きく開 けたススキ野原に出た。ここが、かね て念願の万年青平789㎡であった。左手 に狗留孫神社の奥山、天狗山941mが聳 え、右手には県境線の山々が東西に長 く連なっている。丁度正午になったの で駐車した車の脇に座り、周囲の山々 を眺めながら昼食を食う。丈なすスス キを掻き分けながら「木屋ヶ野」の三 角点を目指す。500mほどで狭い涸谷に 入り苔蒸した倒木を跨ぎながら急傾斜 を登り詰める。約40分で強風が吹き抜 ける県境線の尾根上に出た。地図を按 じながら三つの小ピークを越えて西へ 進むと、工藤支部長の「三角点があり ますよ…」の声。雑木林の中に可憐? なⅢ等三角点(梶ヶ野 947.2m) が鎮座し ていた。下りは速い、約40分で万年平 に着いた。往路をバックし段塔林道の 中程から再び県境線を越えて、えびの 市の高野牧場に入る。県境線の林道(& 端の牧舎の上に出た。地図にある送電 線と並行して新しい送電線路が通じて いる。三角点の位置と覚しい所に「九 電宮崎幹線68号 …2003.1… | 鉄塔が 立っている。周辺を隈無く探したが三 角点を発見出来なかった。林道脇に僅 かな空地を残して南側は広場が造成し であり、或いはその際亡失したか…

林道と広場の中間に古い紅白の測量ポールが立っている。或いはと覗き込むと三角点標ではなく「山」境界標だったが、ここに三角点標があったものとして次に移動することにした。高野牧行く。今までのダートな林道とは異な行く。今までのダートな林道とは異なり快適な舗装道路だ。約2 報で青いを草地の丘に出る。県境線から300旅ほで南に入っているが、大方の見当をつけて三角点を探す。牧草地境界の費の中に753mのIV等三角点標を見付けだすのにそれほど時間はかからなかった。

終日一点の雲もなかった青空の下で 霧島連峰をバックに、全員横並びで記 念写真を撮る。県境の山歩きの「落穂 拾い」も、これで終了としよう。総延 長 436報の熊本県境線のうち、今日は 約 8報の県境線をトレースした。そし て9ヶ所のポイントを確認したことに なる。帰路は快適な舗装道路をルンル ン気分で下る。高速道路に乗り八代平 野に出たところで、天草諸島の上空を 真紅に染める夕焼けを見た。

あとは厳密に云えば、人吉市矢岳の 黒原越にある751.5mと、742.6mの二つ の三角点ピーク。水俣市久木野の布計 越にある687.5mと846.2mの二つの三角 点ピークがあるが、何度かその周辺を 通過しているので一応、帳消しにした い。鹿の食害で猟期が延長されたので この区間は、いま危険がいっぱい… 君子危うきに近寄らずである。呵呵!

(柚・記)



会員近況

5421 本田誠也

県境の山は3月でENDとします。 どのようにまとめるか、それから考え ます。

日本分水嶺は4月から始めます。1 月中に実施計画を作成。できれば1/ 10の晩餐会で発表したい。

4943 馬場 猛

開腹手術後9ケ月になるが、痛みはとれず疼きます。動脈瘤もいまだ心配。何とか手術しないで済むように努めていますが、禁酒・禁煙には参っています。こっそり僅かのんでますが、それが大変うまいので困ったものです。

10185 神谷平吉 10186 神谷文子

小生当夜、熊中、熊高歴代校長、歴 代会長会に出席の返事を出してしまい ましたので、申し訳ありませんが新年 晩餐会は失礼させていただきます。

この1年間で、回数だけは本日現在 47回の山行を重ねることができました。しかし、その内容たるやお恥ずか しい限りで、主として阿蘇の山々や、 近くの雁回山、二の岳・三の岳といっ た里山など近郊の山々に限られ、春の 連休に霧島の山々を訪ねた位です。盆 休みには、久しぶりに那須岳を目指し ましたが、連休の雨に雪も交じる有様 で、近くの温泉でのんびり過ごしてしまいました。 9402 河上洋子

今年も残り少なく慌ただしい日々です。いつもご連絡有り難うございます。来年は全国支部懇談会の当番支部ということ、お世話でしょう。今も現役で山行を続けていたら張り切ってお手伝いできたのにと残念です。いつか書きましたように根子岳で遭難死した友の30回忌を現地でやって、何だかさっぱりと山を断念した思いです。新年会には出席したいですが、県内の太極拳連盟の合同交流大会をやります。中し訳ありません。皆様にくれぐれもよろしく。

6659 田上敏行

雑用に追われて、例年より登山の回数は少なくなりましたが、健康維持もかねて、山行を続けています。ただ昨年初め頃から頚椎を痛めてしまい、その後は大事をとって、ハードな山行は控えています。

11856 太田章雄

2004年には山行が出来るようになりたいと思います。

10240 長田光義

都合で出席出来ず申し訳ありません。調べ ものがあり、昨年末から天草の山を多数登っ ています。

5117 佐藤光俊

新年おめでとうございます。今年も何かと お世話になる事でしょうがよろしくお願い致 します。会員・会友の皆様によろしく。

5120 石井久夫

どうしても用事のため出席出来ません。火山性地震のため高千穂の峰は登山禁止になりました。最近は少し落ち着きましたが、いつ解禁になります事やら。早目に治ってくれればと思っております。韓国の方は大丈夫のようです。ご盛会を祈ります。

8605 門脇愛子

里山歩きですが、月2回平均で山歩きしています。その中で久しぶりに万年山に行けたらと、県外ですが行きたかった伊吹山が今年の山では最高峰。このペースで出来るだけ長く歩きたいと願っています。

9649 鶴田佐知子

日頃は九州内の山を歩き廻りますが 今年は山に目覚めた娘夫妻、孫と6月 は21年ぶりに雪の残る谷川岳に登り ました。秋は小雪降る北八ケ岳の茶臼 山と縞枯山に登り(20年ぶり)、ラ ンプの縞枯れ山荘で楽しい時を過ごし よき1年でした。

9328 川端浩文

相変わらずボランティアのAFS活動で多忙を極めています。山行は近くの低山を時々。高岳に久しぶりに登りロープウェー下の登山道が舗装されているのに驚いた次第です。

10233 吉田恒子

退職後は友人と一緒に温泉めぐり、旅行を楽しんでいます。山行の方も無

理のない低い山をおしゃべりを楽しみながら 歩いています。今後もこのペースで余生を楽 しんで行きたいと思います。

13047 伴 栄子

いつもの申し訳けありませんが、都合つか、 ず欠席させていただきます。2004年秋の 分担、観光係は引き受けます。何なりと申し 付け下さい。

4439 菅 隆雄

15年中には目標の35座の登頂を達成しました。16年には、1月17、18日の開 聞岳、金峰山と指宿温泉を皮切りに、主とし て低山を中心に山行を計画してみたいと思っ ております。

10390 阿南誠志

11月、ネパールへ学校を造ってきました。30年来の夢の実現です。多くの山好きな、熊本の登山者にお支えいただき、今日があること、ありがたき事です。今回のネパール学校も、皆様の暖かい「心(募金)」が集まってなしおえた技でした。私どもの微力なものですが、なにかお役に立つなら幸いです。

13822 阿南大吉

ご無沙汰いたしております。昨年はシェル パ鹿児島店がオープンしまして、バタバタと した1年でした。今年も更に忙しくなります よう頑張ります。今年もよろしくお願いしま す。

12909 永谷誠一

井無田に住んで早や1年となりました。清 澄な大気の中、春夏秋冬の季節を味わい、そ の環境の素晴らしさに大満足している 毎日の生活です。季節を追っての山野 草が次から次へと可憐な花をつけ、目 を楽しませてくれます。早春の「ショ ウジョウバカマ」にまず驚き、タンポ ポ、ハルリンドウ、ハナヒヨドリ、ノ カンゾウ、ユウスゲ、オトギリソウ、 シモツケソウ、それからワレモコウ、 アキノキリンソウ、オミナエシ、サイ ヨウシャジン、ヤマラッキョウ、ヤマ ホトトギス、ネジバナ、ウメバチソウ の群落と毎日の散歩が楽しみでした。 山も5月の屋久島、6月の四国、剣山 三嶺、7月は福島の磐梯山、西吾妻岳 安達太良山。8月は北ア常念岳~燕岳 **縦走。9月には飯豊山に登りました。** 今年は5月に四国赤石岳、伊予富士、 7月に大雪山、8月は北ア立山~大日 岳。9月に朝日連峰を目指します。日 頃の健康に十分の注意をして目指す山 々を楽しみます。

> 11771 **加藤** 功一 会 友 **加藤**百合子

昨年は日本の南北、世界旅行と遊び に忙しい1年でした。

1月・・筑波山 4月・・宮之浦岳 8月・・カナダ、バンフのサルファー 山、9月・・八甲田山・岩木山、10 月・・アンナプルナトレッキング

年末年始は横浜の娘のところで新年 を過ごし、東京の山を登ろうと思って います。

11538 **丸尾龍**一 毎年山へ行く事が少なくなっていま す。皆様に会うのも恥ずかしい位ですが、退 職したら、思い切り行きたいと思います。

13845 加藤 明

やっとトレッキングの疲れが取れて、近く の山を散策しています。

13852 石井文雄

平成15年10月ネパールへのトレッキングの後は近くの山へ(家族サービス)と、時々10Kのランニングを続けております。

会 友 松岡栄治 会 友 松岡啓子

昨年は日課の立田山散歩とニュジーランド、ミルフォードトレッキング(2週間)、ネパールヒマラヤ(トロンパス 5416m)トレッキング(4週間)の他、金峰山、岩宇戸山、鞍岳、ツームシ山、筒ケ岳、屋久島宮之浦岳二ツ岳、平治岳、洞ケ岳、小鈴山、酒呑童子高岳、中岳、黒岩山、泉水山等の山に登り、健康維持、体力向上に努めました。

会 友 斎藤弘毅

正月は、五竜岳に行きました。

会 友 中村恵二

関西の子供のところで正月をしますので、 中旬に帰熊の予定です。職場の0B登山部を 立ち上げ、毎月例会実施中。

会 友 橋本岳範

学校の多忙に負けそうになりながらも、地 道に山岳活動を続けております。生徒も素直 についてきます。

会務報告

- ◇支部委員会
- (職)平成15年3月27日(木)
- (騙) 国際交流会館
- (雌群)本田、工藤、田上、鶴田、加藤 広永
- (腰)全国支部懇談会、支部総会提出議 案について審議
- ◇支部委員会
 - (時)平成15年4月20日(日)
 - (騙)九州電通労働会館
 - (端赭) 工藤、神谷、田上、鶴田、広永 藤本、本田
 - (腰)全国支部整談会の開催計画
 - ◇平成15年度支部総会
 - (時)平成15年4月20日(日)
 - (퇢) 九州電通労働会館
 - (出 報) 西沢、菅、本田、田上、工藤、 松本、菊池、門脇、川端、鶴田、 広永、神谷、加藤陵、吉田、藤本 丸尾、加藤功、永谷
- ▶ (盆)能田、加藤、石井、中村
 - (腰) 1 4年度事業報告及び収支決算報告、監査報告
 - 15年度事業計画及び予算案
 - 役員改選

常務委員 委員 田上 重任

松本 新任

"

鶴田

再任

"

加藤功 再任

特別委員

阿南誠 新任

会終了後、懇親会を開催し、又故奥

野名誉会員の蔵書の頒布を行う。

(新入会員)

 \Diamond

13822 阿南 大吉 4月21日入会 13823 阿南志武喜 同 上

◇平成15年度通常総会、支部長会議及び評議員会

- (畸) 平成15年5月17日(土)
- (斷) 東京グリーンホテル水道橋
- (朏諸)工藤、本田、
- ◇『県境の山』補遺調査
- (畸)5月24日(土)~25日(日)
- (騙) 向坂山~三方山
- (端赭) 本田、田上、松本、広永、丸尾、加藤夫 妻、安場
- (腰)前夜から緑仙境の「清流館」に宿泊したが、夜半からの雨と強風のため、予定を変更して、稲積山と矢筈岳に登る。
- ◇支部委員会
- (晴)平成15年5月30日(金)
- (斷) 国際交流会館
- (腰)全国支部整談会の開催計画。役割分担に ついて

新入会員

13845 加藤 明 5月27日入会 13852 石井文雄 5月30日入会

- ◇支部委員会
- (暗)平成15年7月8日
- (噺) 国際交流会館
- (蹠精)工藤、神谷、田上、鶴田、広永、藤本
- (腰)全国支部懇談会開催準備、全国支部懇談総会青森大会への視察員派遣について

新入会員

13889 安場俊郎 7月17日 公

夏期例会『ビールパーティー』 (時)平成15年8月26日(火) (鰤)熊本交通センターホテル

- (腰) 宴会前の時間を利用して、全国支部整談会の係ごとの班別会議。中村会友のスイス旅行のビデオ放映広永会員のガラパゴス旅行報告及び加藤会員のカナダ旅行報告。
- ◇第20回全国支部懇談会青森大会 (時)平成15年9月14日(土) ~15日(日)
- (駅) 青森県十和田湖、奥入瀬渓流 グランドホテル
- (腰)全国から214名が参加。14日 はホテルで懇談会、懇親会。翌日 は十和田山へ登山。工藤、鶴田、 広永、加藤会員4名を派遣。

◇支部委員会

- (暗)平成15年9月30日(火)
- (斷)国際交流会館
- (點翻)工藤、神谷、田上、松本、鶴田 広永、阿南、藤本、加藤、本田
- (腰)全国支部懇談会青森大会の報告。 中央分水嶺跨査計画
- ◇『県境の山』補遺調査

- (時)平成15年10月15日(日)
- (斸) 向坂山~三方山
- (端諸) (離題) 本田、松本、広永。 (離題) 菅、藤本、田上ファミリーによる考査縦走を行う
- ◇『県境の山』補遺調査
- (時)平成15年11月3日(月)
- (騙)下切山
- (淵諸)本田、加藤夫妻
- (腰)宮崎ウエストン祭に参加の後、下切山に 向かうが、雨のため断念。
- ◇支部委員会
- (時)平成15年11月18日(火)
- (騙) 国際交流会館
- (雌都)工藤、神谷、田上、加藤、本田、
- (腰)全国支部懇談会準備会
- ◇平成15年度年次晩餐会及び支部長会
- (時)平成15年12月16日(土)
- (駅) 東京新高輪プリンスホテル
- (蹠)工藤、松本、広永、本田
- (腰) 皇太子殿下を初め、508名の会員参加
- ◇平成16年度新年晚餐会
- (晦)平成16年1月10日(土)
- (噺)熊本交通センターホテル
- (腰) 24名の会員、会友が賑やかに新年の挨拶をかわした。工藤支部長から、10月に開催される全国支部懸談会の成功に向けて会員、会友への協力要請あった。又、新しく入会した石井、加藤、安場の3氏が紹介された。

- ◇『県境の山』補遺調査
- (時)平成16年1月11日(日)
- (噺) 千間平~筒ケ岳
- (雌精)工藤、菅、本田、田上、安場 田北
- (腰)祖母山西尾根の県境線調査
- ◇九州五支部懇談会と交流登山の集い (時)平成16年1月17日~18日(日) (斷)宮崎市ひまわり荘、釈迦ケ岳 (端赭)工藤、本田、鶴田、加藤県石井東 加藤夫妻、田上ファミリー、石井魚
- ◇『県境の山』補遺調査(時)平成16年2月15日(日)(糖)万年青平~947mピーク(木屋

ケ原)~えびの市

- ◇支部事務局担当者会議・中央分水嶺踏査 担当者会議
- (職)平成16年2月21日(土)~22日
- (糖)東京都グリーンホテル水道橋及び 日本山岳会ルーム

(贈書)本田、田上

- (腰)中央分水嶺踏査区分の決定、踏査内容及 びGPSの使用法などについて確認。又 全国支部懸談会熊本大会について説明し た。
- ◇支部委員会
- (晴)平成16年3月16日(火)
- (新) 国際交流会館
- (幽緒)工藤、本田、田上、松本、鶴田、加藤 永谷、藤本

編集後記

- ◇ 昨年3月発行した熊本支部報の発行番号が、12号となっていましたが、実は13号でした。私のミスでした。お詫びします。今回は、14号になります。
- ◇ 1年前のこの欄に四十層のことを書きましたが、この痛みも時が解決してくれるものとのんびり構えていました。結局今年も治癒せず色んな不自由を被っています。この痛みの始まりが一昨年の秋からで、もう1年半にもなります。黒板に板書するにも手が上がらず左手でかな釘文字を書いて、生徒に笑われたりしました。しかし、この頃、暖くなるにつれていくらか改善しつつあります。若い、若いと自分の身体には自信満々だったのに、知らず識らずのうちに老化は間違いなく進行していることを実感しました。
- ◇ 原稿をお寄せ下さいました皆様には大変お世話になりました。加藤会員には昨年に続いて大作の報告書をいただき、何とか体裁が整いました。有り難うございました。
- ◇ 『県境の山』の補遺踏査も2月のえびの市周辺の調査で終わりました。本田会員の踏査計画、現場での強力なリードで、この企画も完遂出来ました。ご苦労様でした。
- ◇ 先日、田上事務局長が、全国支部懇熊本大会の役員としての参加者調査をしましたが 会員・会友55名の中で現在37名の方にご協力をいただく事になりました。計画の方 も順調に進んでいて、皆様と一緒に取り組めば、必ず全国の皆様に、熊本の良さを満喫 してお帰りいただけると確信できるようになりました。どうぞよろしくお願いします。

(工藤文昭 記)